

令和5年度 年間授業計画

東京都立駒場高等学校

教科名	国語	学年学科 (単位数)	2年 (2単位)
科目名	現代文総合	授業形態	必修
教科担当者			
使用教科書 副教材等	「精選 論理国語」「文学国語」(数研出版) 「新訂国語図説〈六訂版〉」(京都書房) 「評論・小説を読むための 新現代文単語 改訂版」(いっずな書店) 「現代文 長文記述問題集2 読解力養成編 三訂版」(いっずな書店) 「入試頻出漢字+現代文重要語彙 TOP2500」(いっずな書店)		
目 標	(1) 論理展開や場面展開を理解し、記述に応じた客観的な読み方ができる。(2) 評論に多用される語彙や概念を理解し、抽象的な思考ができる。(3) 長文評論を正確に適度な速度で読める。(4) 目的や意図に応じた文章が書ける。(5) 目的や場に応じた的確に聞き話すことで自分の考えを深める。(6) 漢字・語句の習熟		
	予定 時数	項目・学習単元	学習内容・指導目標・留意事項
1 学 期	1 2	広中平祐「学問の発見」 梶井基次郎「檸檬」	① 物事を深く考えて決断する人間特有の力について学ぶ。 ② 美に対する鋭敏な感覚を味わう。
	1 4	清岡卓行「手の変幻」 中島敦「山月記」	① 人間存在における手の象徴的意味を読み取る。 ② 虚構世界の中にある真実を読み取り、人間心理や人間関係への理解を深める。 ③ 簡潔高雅な文体を味わい、読書の幅を広げる。
2 学 期	1 4	夏目漱石「こころ」 長田弘「国境を越える言葉」	① 長編小説の全体を読んだ上で、部分を読解し、構成や主題の把握、登場人物の心理変化を理解する。 ② 抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。
	1 4	岩井克人「未来世代への責任」 港千尋「疑似群衆の時代」	① 未来世代の利益を守るための倫理を考える。 ② 近代・現代・近未来を見通して、時代を動かす群衆について考察する。
3 学 期	1 6	森鷗外「舞姫」	① 古典的な名作を読み、登場人物の心情の揺れに密着して小説を読む方法を学ぶ。 ② 自我の覚醒と絡め、小説を自分と関連させて読む態度を学ぶ。 ③ 語句の意味を正確に捉え、美しい描写や表現に触れることによって言語感覚を磨く。 ④ 明治文語文の文体に慣れる。
評価の 観点・方法	定期考査以外に、現代単語の小テストや要約文作成等を実施し、日常的な学習の積み重ねを大切にする。また、副教材の文章を自学自習的に読ませることで多様な文章に接する機会を増やすとともに、設問解答の方法に慣れさせ、それらを総合した形で定期考査問題を作成し、日常的な学習活動の成果を加味して評価する。		

令和5年度 年間授業計画

東京都立駒場高等学校

教科名	国語	学年学科 (単位数)	2年 普通科・保体科(3)
科目名	古典探究	授業形態	学校必修
教科担当者			
使用教科書 副教材等	「探求 古典探究(古文編・漢文編)」(桐原書店) 「新訂国語図説(六訂版)」(京都書房) 「完全マスター古典文法(改訂三版)」(第一学習社) 「わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語330三訂版」(いっずな書店) 「新演習 古典アチーブ2 三訂新版」(桐原書店) 「和歌る力がつくノート」(尚文出版) 「新版 古典文法習得のための まぎらわしい語の識別マスターノート」(数研出版) 「必携 新明説漢文」(尚文出版)		
目 標	① 基本、重要古語を身につけること。 ② 基本的な文法事項を理解し、読解に活かすようにすること。 ③ 文章の構成を捉え、文章の主題・大意を正確に把握すること。 ④ 文学史の知識を増やすこと。		
	予定 時数	項目・学習単元	学習内容・指導目標・留意事項
1 学 期	1 8	徒然草「家居のつきづきしく」 詩「長恨歌」	① 助動詞や助詞などに留意しながら口語訳できる。 ② 物語の世界を想像しながら、読み解いていくことができる。 ③ 全体の構成を理解し、詩中に展開する物語の筋を正しく理解する。
	2 1	枕草子「中納言参りたまひて」 大鏡「花山院の出家」 文章「春夜宴桃李園序」	① 敬語の知識を用いて、人物関係が理解できる。 ② 敬語を用いて、歴史物語の内容を正しく把握することができる。 ③ 文体の特色を理解する。 ④ 作者の人生観を把握する。
2 学 期	2 1	更級日記「門出」 「物語」 史伝「鴻門之会」(一)~(三)	① 物語がどのように享受されていたかを理解する。 ② 作者にとって『源氏物語』はどのような存在であったかを理解する。 ③ 訓読のきまりに従って、正確に本文を読めるようにする。
	2 1	源氏物語「光源氏の誕生」 史伝「鴻門之会」(四)(五)	① 源氏物語を文法事項に気をつけながら読むことができる。 ② 脚注や漢和辞典を利用して全文を口語訳し、全体の内容を把握・理解できるようにする。
3 学 期	2 2	源氏物語「若紫との出会い」 史伝「四面楚歌」	① 古文の読解に必要な基本語彙や、助詞・助動詞および、敬語を含めた文法事項を総合的に理解する。また、和歌表現の内容と方法について、正確に把握する。 ② 口語訳する際に留意を要する句法について理解する。
評価の 観点・方法	定期考査以外に、文法や単語の小テスト、副教材の問題演習を実施し、基本的な文法事項や句法の定着に努めると共に、副教材の文章を自分で読むことで、古文や漢文を初読する練習を積ませる。定期考査以外に、日常的な学習活動を加味して評価を行う。		

年間授業計画

科目(講座名)	歴史総合 (日本史分野)	3単位	必履修	学年	2年
教科書 副教材	山川出版社 歴史総合 近代から現代へ 山川出版社 歴史総合 近代から現代へ ノート	教科担当			

1 教科の目標

日本の近代史および現代史の特徴をアジア諸地域や欧米諸国あるいはその他の諸地域とのつながりのなかで捉え、教科書や資料の読解を通して歴史上生成した諸問題を自ら考察し表現する力を身に付ける。
--

2 科目の目標

<p>【知識及び技能】 歴史上のできごとや歴史用語を理解し、歴史用語を用いて簡潔にまとめることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 資料読解を通して歴史的事象の関連性を分析・判断し、歴史用語を用いて表現することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 現代とつながる歴史的事象に対し興味を持ち、自主性をもって学んでいる。</p>

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数
1 学期	4	I 近代化と私たち 第1章結びつく世界	近世社会の特徴とは何か 開国とその影響	知 歴史用語と歴史事象の関連性の理解	4
				思 資料の読解と表現力	
				主 自主的・意欲的な学習態度	
	5	第2章近代欧米世界の成立 第3章明治維新と立憲体制	明治維新の諸改革	知 歴史用語と歴史事象の関連性の理解	3
				思 資料の読解と表現力	
				主 自主的・意欲的な学習態度	
	6	第3章明治維新と立憲体制 第4章帝国主義の展開とアジア	自由民権運動	知 歴史用語と歴史事象の関連性の理解	3
				思 資料の読解と表現力	
				主 自主的・意欲的な学習態度	
	7	第5章第一次世界大戦と大衆社会	立憲体制の成立	知 歴史用語と歴史事象の関連性の理解	4
				思 資料の読解と表現力	
				主 自主的・意欲的な学習態度	
日清戦争 産業革命 日露戦争			知 歴史用語と歴史事象の関連性の理解	5	
			思 資料の読解と表現力		
			主 自主的・意欲的な学習態度		
第一次世界大戦 社会・労働運動の進展 大衆の政治参加	知 歴史用語と歴史事象の関連性の理解	5			
	思 資料の読解と表現力				
	主 自主的・意欲的な学習態度				
2 学期	II 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第6章経済危機と第二次世界大戦	1920年代の経済危機 世界恐慌の発生と対応	知 歴史用語と歴史事象の関連性の理解	4	
			思 資料の読解と表現力		
			主 自主的・意欲的な学習態度		
	第二次世界大戦と太平洋戦争	満州事変 日中戦争	知 歴史用語と歴史事象の関連性の理解	5	
			思 資料の読解と表現力		
			主 自主的・意欲的な学習態度		
	第7章戦後の国際秩序と日本の改革	第二次世界大戦と太平洋戦争	知 歴史用語と歴史事象の関連性の理解	5	
			思 資料の読解と表現力		
			主 自主的・意欲的な学習態度		
	占領下の日本と民主化	占領下の日本と民主化	知 歴史用語と歴史事象の関連性の理解	5	
			思 資料の読解と表現力		
			主 自主的・意欲的な学習態度		
占領政策の転換と日本の独立	占領政策の転換と日本の独立	知 歴史用語と歴史事象の関連性の理解	5		
		思 資料の読解と表現力			
		主 自主的・意欲的な学習態度			

			55年体制の成立	知	歴史用語と歴史事象の関連性の理解	4
				思	資料の読解と表現力	
				主	自主的・意欲的な学習態度	
3 学 期		第7章戦後の 国際秩序と日 本の改革	日本の高度経済成長	知	歴史用語と歴史事象の関連性の理解	4
				思	資料の読解と表現力	
				主	自主的・意欲的な学習態度	
			冷戦の終結 国際社会のなかの日本	知	歴史用語と歴史事象の関連性の理解	5
				思	資料の読解と表現力	
				主	自主的・意欲的な学習態度	
			現代日本の諸課題	知	歴史用語と歴史事象の関連性の理解	2
				思	資料の読解と表現力	
				主	自主的・意欲的な学習態度	

年間授業計画

科目(講座名)	歴史総合 (世界史)	3単位	必履修	学年	2年
教科書	山川出版社 詳説世界史	教科担当			
副教材	山川出版社 歴史総合 近代から現代へ				
	山川出版社 歴史総合 近代から現代へノート				

1 教科の目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 科目の目標

【知識及び技能】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数	
1 学 期	4	"第12章 産業革命と環 大西洋革命"	1 産業革命	知	産業革命が18世紀後半のイギリスから始まった背景や技術革新の展開を理解している。	1
				思	当時の工場の様子を描いた図像資料や都市の人口を示す統計をもとに、産業革命が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	
				主	イギリス産業革命について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
	5		2 アメリカ合衆国の独立と発展	知	アメリカ合衆国がどのような歴史的経緯をたどって独立したのかを理解している。	2
				思	アメリカ独立宣言や「権利の章典」(第11章4節)などの資料をもとに、アメリカ合衆国独立の独自性を多面的・多角的に考察し表現している。	
				主	アメリカ合衆国の独立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
5	3 フランス革命とナポレオンの支配	知	フランス革命が起こった要因やナポレオンが台頭した背景を理解している。	3		
		思	「旧体制」の風刺画などの図像資料や人権			

				宣言などの資料をもとに、フランス革命において「国民」を主役とする社会が創出されたことについて、多面的・多角的に考察し表現している。	
			主	フランス革命とナポレオンについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
		4 中南米諸国の独立	知	中南米諸国の独立がどのような経緯をたどって実現したのかを理解している。	1
			思	中南米諸国の独立年を示す地図などをもとに、ヨーロッパ情勢をふまえたうえで、短期間に多くの独立が達成された要因を多面的・多角的に考察し表現している。	
			主	中南米諸国の独立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
"第13章 イギリスの優位と欧米国民 国家の形成"	1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動	知	19世紀前半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、ウィーン体制や1848年革命、さまざまな主義主張の特徴とあわせて理解している。	2	
		思	ウィーン会議後のヨーロッパを示す地図や会議を風刺した図像資料などをもとに、ウィーン会議がヨーロッパ各地の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。		
		主	ウィーン体制について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。		
	2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成	知	19世紀後半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、時代的な背景や各国の共通点・相違点もふまえて理解している。	2	
		思	鉄道距離の推移を示す統計やイタリアとドイツの統一を示す地図などをもとに、19世紀後半にヨーロッパの再編成が進んだ背景を多面的・多角的に考察し表現している。		
		主	19世紀後半のヨーロッパの再編成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。		
3 アメリカ合衆国の発展	知	南北戦争につながったアメリカ合衆国内の対立構造やその後の展開を理解している。	2		
	思	アメリカ合衆国の領土拡大を示す地図や大陸横断鉄道開通の写真などの図像資料をもとに、アメリカ合衆国の急速な発展の要因を多面的・多角的に考察し表現している。			
	主	アメリカ合衆国の発展について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。			

			4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄	知	19世紀欧米文化の展開と近代諸科学の発展の経緯を理解している。				
				思	19世紀欧米文化のさまざまな事例をもとに、この時期の文化と現代の文化とのつながりを多面的・多角的に考察し表現している。				
				主	19世紀欧米の文化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。				
2 学期	6	"第14章 アジア諸地域の動揺"	1 西アジア地域の変容	知	オスマン帝国・イラン・アフガニスタンにおける動揺や改革の推移を、ヨーロッパ列強との関係ともあわせて理解している。	2			
				思	マムルークの一扫を表した図像資料やオスマン帝国憲法などの資料をもとに、この時期のアジア各地での変化や改革について多面的・多角的に考察し表現している。				
				主	西アジアの変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。				
						2 南アジア・東南アジアの植民地化	知	ヨーロッパ各国による南アジアと東南アジアの植民地化の経緯を理解している。	2
					思		東南アジアの植民地化の地図やゴムのプランテーションを示した図像資料をもとに、ヨーロッパ各国の進出の経緯をふまえ、南アジアと東南アジアにおける植民地化と世界経済の関係を多面的・多角的に考察し表現している。		
					主		南アジア・東南アジアの植民地化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。		
						3 東アジアの激動	知	欧米諸国の進出の経緯と東アジア諸国の改革の試みの成果や課題を理解している。	2
					思		文字資料「マカートニーの1794年1月の日記」やアヘン戦争を描いた図像資料、東アジアの開港場を示した地図などをもとに、この時期の東アジア国際秩序の変容について多面的・多角的に考察し表現している。		
					主		東アジアの激動について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。		
	9	"第15章 帝国主義とアジアの民族運動"	1 第2次産業革命と帝国主義	知	第2次産業革命が社会に与えた影響や帝国主義時代の欧米列強の国内情勢および植民地拡大の経緯を理解している。	2			
			思	国際情勢を風刺した図像資料や「白人の責務」などの資料をもとに、欧米列強が植民地や勢力圏の拡大を争った背景を多面的・多角的に考察し表現している。					
			主	第2次産業革命と帝国主義について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学					

10		2 列強の世界分割と列強体制の二分化	知	習に取り組もうとしている。 列強による世界分割がどのように進められたかや列強体制の変化について理解している。	1
			思	列強の植民地・勢力圏を示した地図や帝国主義を風刺した図像資料をもとに、列強による世界分割が各地に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	
			主	列強の世界分割について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
		3 アジア諸国の変革と民族運動	知	アジア各地における改革や民族運動がどのように展開し、いかなる結果をもたらしたのかを理解している。	2
			思	アジア各地の情勢や梁啓超「中国積弱の根源について」などの資料をもとに、アジア各地の変革や民族運動の背景を多面的・多角的に考察し表現している。	
			主	アジア諸国の変革と民族運動について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
"第16章 第一次世界大戦と世界の変容"	1 第一次世界大戦とロシア革命	知	第一次世界大戦とロシア革命がどのように展開したのかを、戦時外交や総力戦の特徴、大戦をもたらした結果などとあわせて理解している。	3	
		思	塹壕戦やさまざまな新兵器、軍需工場働く女性の図などの第一次世界大戦に関する図像資料および「平和に関する布告」などの資料をもとに、第一次世界大戦とロシア革命が世界にもたらした変容を多面的・多角的に考察し表現している。		
		主	第一次世界大戦とロシア革命について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。		
	2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国	知	第一次世界大戦後に形成された国際秩序の内容やその特徴、その後の国際関係の変化について理解している。	2	
		思	各国の国内情勢を写した図像資料や「十四カ条」などの資料をもとに、1920年代の欧米各国における変容を多面的・多角的に考察し表現している。		
		主	ヴェルサイユ体制下の欧米諸国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。		
	3 アジア・アフリカ地域の民族運動	知	第一次世界大戦がアジア・アフリカの各地に与えた影響を理解する。	2	
		思	民族運動の様子を写した図像資料や胡適「文学革命についての書簡」などの資料をもとに、アジア・アフリカ各地の民族運動の特徴や共通性を多面的・多角的に考察し表現している。		

				主	アジア・アフリカ地域の民族運動について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
1 1 1 2	"第 17 章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成"	1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊		知	世界恐慌が国際関係に与えた影響や各国の対応策、およびヴェルサイユ体制の崩壊にいたる経緯やファシズム諸国・日本の動きについて理解する。	3
				思	政治的なポスターなどの図像資料や経済的な変化を示す統計資料をもとに世界恐慌下の各国における変容を、またナチ党の全国党大会の図像資料や蒋介石「廬山談話」の文字資料などをもとにファシズム諸国や日本の動きについて、多面的・多角的に考察し表現している。	
				主	世界恐慌やヴェルサイユ体制の崩壊について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
		2 第二次世界大戦		知	第二次世界大戦の対立の構図と勃発から終戦までの経緯を理解する。	2
				思	戦場を写した図像資料や「大西洋憲章」などの資料をもとに、第二次世界大戦の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。	
				主	第二次世界大戦について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
		3 新しい国際秩序の形成		知	第二次世界大戦後に形成された国際秩序の特徴を、それ以前との相違点をふまえて理解している。	2
				思	各国の様子を写した図像資料や「中華人民政治協商会議共同綱領」などの資料をもとに、戦後国際秩序下の各国における変容を多面的・多角的に考察し表現している。	
				主	第二次世界大戦後の国際秩序について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	

年間授業計画

科目(講座名)	精選歴史探究 (日本史)	1 単位	必履修	学年	2 年
教科書	山川出版社 詳説日本史	教科担当	小澤 千里		
副教材	山川出版社 歴史総合 近代から現代へ				
	山川出版社 歴史総合 近代から現代へノート				

1 教科の目標

日本の近代史および現代史の特徴をアジア諸地域や欧米諸国あるいはその他の諸地域とのつながりのなかで捉え、教科書や資料の読解を通して歴史上生成した諸問題を自ら考察し表現する力を身に付ける。

2 科目の目標

【知識及び技能】

歴史上のできごとや歴史用語を理解し、歴史用語を用いて簡潔にまとめることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

資料読解を通して歴史的事象の関連性を分析・判断し、歴史用語を用いて表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

現代とつながる歴史的事象グローバルにとらえ、興味を持ち、自主性をもって学んでいる。

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数
3	1	第7章戦後の国際秩序と日本の改革	日本の高度経済成長	知 国際関係の変化や技術革新と関連付けての、歴史用語と歴史事象の理解	4
				思 経済面での諸資料の読解と表現力	
				主 社会の諸相を捉える自主的・意欲的な学習態度	
3	2	冷戦の終結 国際社会のなかの日本	冷戦の終結 国際社会のなかの日本	知 冷戦の終結が我が国にもたらした変化に関し、歴史用語と歴史事象の関連性に対する理解	5
				思 諸資料の読解と表現力	
				主 社会の諸相を捉える自主的・意欲的な学習態度	
3	3	現代日本の諸課題	現代日本の諸課題	知 歴史用語と歴史事象の関連性の理解	2
				思 我が国の課題を国際関係の中で捉え、資料の読解し表現する力	
				主 現代の世界や我が国の抱える諸問題に興味・関心を持ち、自主的・意欲的に学習しようとする態度	

年間授業計画

科目(講座名)	精選歴史探究(世界史)	1単位	必履修	学年	2年
教科書	山川出版社 詳説世界史	教科担当			
副教材	山川出版社 歴史総合 近代から現代へ				
	山川出版社 歴史総合 近代から現代へノート				

1 教科の目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 科目の目標

【知識及び技能】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数
3 学 期	1	"第18章 冷戦と第三世界 の台頭"	1 冷戦の展開	知 冷戦がどのように進展したのかを、各国の社会に与えた影響や核開発の動きなどとあわせて理解している。	2
				思 先進国の平均経済成長率を示した統計資料や「スターリン批判」などの資料をもとに、冷戦下における東西両陣営の社会の変容を多面的・多角的に考察し表現している。	
				主 冷戦の展開について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
			2 第三世界の台頭とキューバ危機	知 冷戦のもとで第三世界の台頭がどのように進んだのかや、キューバ危機を経て国際社会が核兵器の制限にどのように取り組んだのかを理解している。	2
思 当時の世界情勢をふまえたうえで「カストロによる第2次ハバナ宣言」などの資料をもとに、キューバ革命が国際社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。					
			主 第三世界の台頭とキューバ危機について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持っ		

					て学習に取り組もうとしている。	
	2		3 冷戦体制の動揺	知	ベトナム戦争をはじめとする 1960 年代以降の冷戦体制の動揺やその推移を、米ソの代理戦争としての視点や各国における変化をふまえて理解している。	2
				思	1960 年代の各地の様子を写した画像資料や「チェコスロヴァキア共産党行動綱領」などの資料をもとに、冷戦の動揺が各地にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現している。	
				主	冷戦体制の動揺について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
	3	“第 19 章 冷戦の終結と 今日の世界”	1 産業構造の変容	知	1960～1980 年代の各国の経済や社会の状況を、経済構造の変化をふまえて理解している。	2
				思	原油価格の推移や経済成長率の推移などの統計資料をもとに、オイル＝ショックが世界の社会と経済に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	
				主	オイル＝ショックとその影響について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
			2 冷戦の終結	知	冷戦がどのような過程をたどって終結したのかを理解している。	2
				思	1990 年前後の各地の様子を写した画像資料などをもとに、さまざまな出来事と東西対立緩和の関係を多面的・多角的に考察し表現している。	
				主	冷戦の終結について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
			3 今日の世界	知	冷戦終結後の各地の状況や地域・民族紛争、経済における世界の一体化について、国際情勢をふまえたうえで理解している。	
				思	各地の状況を写した画像資料などをもとに、今日の世界が抱えている課題の特徴や傾向を多面的・多角的に考察し表現している。	
				主	今日の世界が抱えている課題について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
			4 現代文明の諸相	知	現代思想・文化の特徴をそれまでの文化・思想と比較したうえで理解している。	1
				思	芸術作品を示した画像資料やジェンダー＝ギャップ指数を示した統計資料などをもとに、人々の世界観や生活のありようの変化を多面的・多角的に考察し表現している。	
				主	現代文明の諸相について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなど	

				を見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
--	--	--	--	-----------------------------	--

年間授業計画

科目(講座名)	数学Ⅱ	3単位	必履修	学年	2年
教科書 副教材	数学Ⅱ(数研出版) クリアー数学Ⅱ完成ノート	教科担当			

1 教科の目標

目標 いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

2 科目の目標

【知識及び技能】

指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数
1 学 期	4 月	第4章 三角関数 第1節 三角関数	1. 一般角と弧度法 (1.5)	知 弧度法の定義を理解し，度数法と弧度法の換算ができる。	3
				思 弧の長さで角を図る方法として，弧度法を考察することができる。	
				主 新しい角の測り方である弧度法に興味をもち，角度の換算に取り組もうとする。	
			2. 三角関数 (2)	知 三角関数の相互関係を理解し，それらを利用して様々な値を求めたり，式変形をしたりすることができる。	3
				思 三角比の定義を，三角関数の定義に一般化して考察することができる。	
				主 三角比の定義を一般化して，三角関数の定義を考察しようとする。	
	5 月	3. 三角関数の性質 (1)	知 $-\theta$ や $\theta \pm \pi$ などの公式を理解し，それらを用いて三角関数の値を求めることができる	3	
			思 三角関数の性質を，単位円を用いて考察することができる。		
			主 単位円を利用して，三角関数の性質を調べようとする。		

2 学 期	6 月	第5章 指数関数と対数関数	4. 三角関数のグラフ (4) 5. 三角関数の応用 (2.5)	知	いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。	1 0	
				思	単位円周上の点の動きから、三角関数のグラフを考察することができる。		
				主	周期関数に興味をもち、その性質を調べようとする。		
			7 月	6. 加法定理 (3) 7. 加法定理の応用 (2)	知	加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。 2倍角、半角の公式を利用して、三角関数の値を求めることができる。	7
					思	正接の定義と加法定理を利用して、2直線のなす角を考察することができる。	
					主	加法定理から、2倍角の公式、半角の公式を導こうとする。	
	7 月		8. 三角関数の合成 (2) 9. 問題演習	知	$a\sin\theta + b\cos\theta$ を $r\sin(\theta + \alpha)$ の形に変形する方法 (三角関数の合成) を理解している。	9	
				思	$a\sin\theta + b\cos\theta$ の変形にあたり、同じ周期をもつ2つの関数の合成であることを理解している。		
				主	同じ周期をもつ2つの関数 $y = \sin x$ と $y = \cos x$ を合成するとそのグラフは位相がずれた正弦曲線になることに興味・関心をもつ。		
	9 月		1. 指数の拡張 2. 指数関数 (1.5)	知	指数が整数、有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を用いた計算をすることができる。 指数関数のグラフの概形、特徴を理解している。	2	
				思	累乗根をグラフによって考察することができる。		
				主	指数法則が成り立つようにするには、0乗、負の整数乗、分数乗をどのように定義すればよいかと調べようとする。		
10 月		3. 対数とその性質 (2) 4. 対数関数 (3)	知	指数と対数とを相互に書き換えることができる。対数関数のグラフの概形、特徴を理解している。	5		
			思	指数法則から、対数の性質を考察することができる。対数関数の増減によって、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。			
			主	指数と対数との相互関係に興味・関心をもつ。			
10 月		5. 常用対数 (2) 問題演習	知	常用対数の定義を理解し、それに基づいて種々の値を求めることができる。	8		
			思	非常に大きな数や小さな数の取り扱いが楽になる常用対数の有用性を考察することができる。			
			主	桁数や小数首位の問題を一般的に考察しようとする。			

3 学 期	11 月	第6章 微分 法と積分法	1. 微分係数 (2) 2. 導関数 (2)	知	平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。	5	
	思			関数の極限値の性質を直感的に理解し、その性質を利用して関数の極限値を考察することができる。			
	主			平均の速さと瞬間の速さに興味をもち、平均変化率や微分係数との関連を考察しようとする。			
	12 月			3. 接線 (1) 4. 関数の値の変化 (3)	知	接点の x 座標が与えられたとき、接線の方程式を求めることができる導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。	5
					思	微分係数の図形的な意味と、直線の方程式の公式から、接線の方程式の公式を考察することができる。	
					主	曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式や接点の座標を求めようとする。	
			5. 最大値・最小値 (2) 6. 関数のグラフと方程式・不等式 (2) 8. 問題演習	知	導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。	1 0	
				思	最大値・最小値と極大値・極小値の違いを、明確に意識して考察することができる。		
				主	身近にある最大値・最小値の問題を、微分法を利用して解決しようとする。		
	1 月	第6章 微分 法と積分法	7. 不定積分 (3) 8. 定積分 (4)	知	不定積分の計算では、積分定数を書き漏らさずに示すことができる。定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。	9	
				思	微分法の逆演算としての不定積分を考察することができる。 定積分が、図形の計量に関して有用であることを認識することができる。		
				主	積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めようとする。		
2 月				9. 面積 (4) 10. 問題演習	知	直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。	1 2
					思	面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかいて考察することができる。	
					主	面積 $S(x)$ が関数 $f(x)$ の1つの不定積分であることに興味・関心をもち、考察しようとする	
2 月 3 月	数学Ⅱからの 発展学習	数学Ⅱ総合演習 および 数学Ⅱからの発展演習	知	数学Ⅱの発展学習として、応用関数の考えを理解し、表現できる。 数学Ⅱの総合問題を解く際、基本知識を理解し公式を使用することができる。	1 4		
			思	応用問題に取り組み、既習範囲の知識を応用し いかに利用できるか考察することができる。			
			主	既習範囲に加えて、複雑な計算、グラフに興味を持ち、考察しようとする。			

年間授業計画

科目(講座名)	数学B	2単位	必履修	学年	2年
教科書	数研出版 数学B	教科担当			
副教材	数研出版 チャート式基礎からの数学Ⅱ+B				
	数研出版 クリアー数学Ⅱ+B				

1 教科の目標

数列, 統計的な推測について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 数学と社会生活の関わりについて認識を深め, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。

2 科目の目標

<p>【知識・技能】 数列, 統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学と社会生活との関わりについて認識を深め, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 離散的な変化の規則性に着目し, 事象を数学的に表現し考察する力, 確率分布や標本分布の性質に着目し, 母集団の傾向を推測し判断したり, 標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力, 日常の事象や社会の事象を数学化し, 問題を解決したり, 解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数
1 学 期	4	第1章 『数列』	第1節「数列とその和」 1. 数列 2. 等差数列とその和 3. 等比数列とその和 4. 和の記号Σ 5. 階差数列 6. いろいろな数列の和	知 数列に関する用語, 記号を適切に用いることができる。 条件から等差数列・等比数列・階差数列の一般項を決定できる。また, 和が求められる。 和の求め方の工夫をして, 数列の和が求められる。	15
	5			思 数の並び方からその規則性を推測して, 数列の一般項を考察できる。 等差数列・等比数列の項を書き並べて, 隣接する項の関係やその和について考察できる。 数列の規則性の発見に, 階差数列が利用できる。 $f(k+1) - f(k)$ を用いる和の求め方を理解し, 具体的な問題に活用することができる。	
6	主 数の並び方に興味をもち, その規則性を発見しようとする意欲がある。 等差中項・等比中項の性質に興味をもち, 問題解決に利用しようとする。 数列の規則性を, 隣り合う2項の差を用いて発見しようとする。 群数列に興味をもち, 一般項や和について考察しようとする。				
			第2節「数学的帰納法」 7. 漸化式と数列	知 漸化式の意味を理解し, 具体的に項が求められる。	

			8. 数学的帰納法		初項と漸化式から数列の一般項が求められる。 数学的帰納法を用いて、等式・整数の性質・不等式を証明できる。	12
			思	漸化式を適切に変形して、数列の特徴を考察することができる。 与えられた条件から a_n と a_{n+1} の間に成り立つ漸化式を求めて考察することができる。 自然数 n に関する命題の証明には、数学的帰納法が有効なことを理解し、活用することができる。 数列の一般項を推測し、それが正しいことの証明に数学的帰納法を活用することができる。 数学的帰納法で証明した命題について、別の方法で証明してそれらを比較するなど、多面的に考察することができる。		
主	おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について考察しようとする。 確率の問題に漸化式が利用できることに興味、関心をもち、問題解決に利用しようとする。 数学的帰納法を利用して、いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。					
7 9	第2章 『統計的な推測』	第1節「確率分布」 1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散 3. 確率変数の変換 4. 確率変数の和と期待値 5. 独立な確率変数と期待値・分散 6. 二項分布 7. 正規分布	知	確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。 確率変数の期待値、分散、標準偏差が求められる。また、変換公式を理解し活用することができる。 同時分布の意味を理解し、2つの確率変数の同時分布表を求めることができる。 事象の独立・従属について理解し、条件付き確率や乗法定理の計算から事象の独立・従属を導くことができる。 二項分布に従う確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。 連続的な確率変数について理解し、確率変数の確率、期待値、分散が求められる。 標準正規分布に従う確率変数 Z についての確率が求められる。	20	
思	確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて、確率分布の特徴を考察することができる。 確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係が捉えられている。 正規分布の特徴を理解し、さまざまな視点から捉えられる。					
主	確率変数の期待値、分散、標準偏差の意味を理解し、進んで確率分布の特徴を調べようとする。 確率変数の変換公式を、期待値、分散、標準偏差の定義式から導こうとする。 独立・従属の観点で事象を考察することに					

				<p>関心をもち、乗法定理を事象の独立・従属の観点から考えようとする。</p> <p>二項分布、連続的な確率変数である正規分布に興味をもち、正規分布について積極的に考察しようとする。</p>	
10		<p>第2節「統計的な推測」</p> <p>8. 母集団と標本</p> <p>9. 標本平均とその分布</p> <p>10. 推定</p> <p>11. 仮説検定</p>	知	<p>母集団分布と大きさ 1 の無作為標本の確率分布が一致することを理解し、母平均、母標準偏差が求められる。</p> <p>母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差が求められる。</p> <p>大数の法則について理解している。</p> <p>信頼区間の考え方をを用いて、母平均や母比率の推定ができる。</p> <p>仮説検定の意味を理解し、正規分布を用いた仮説検定ができる。</p>	15
11			思	<p>無作為抽出の方法について、具体的に考察することができる。</p> <p>母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。</p> <p>推定や信頼区間の考え方がわかる。</p> <p>片側検定と両側検定の違いを理解し、適切に活用することができる。</p>	
12			主	<p>実際に行われているさまざまな調査に興味をもち、それぞれの調査の特徴を調べたり考えたりしようとする。</p> <p>大数の法則に興味をもち、標本の大きさ n が大きくなるときの分布曲線の変化を、コンピュータなどを用いて積極的に調べようとする。</p> <p>母平均や母比率の推定に関心を示す。</p> <p>仮説検定によってさまざまな判断ができることに興味をもち、現実の問題の解説に役立てようとする。</p>	
3 学 期		(精選数学Cへ)	知		
			思		
			主		

年間授業計画

科目(講座名)	精選数学C	1単位	必履修	学年	2年
教科書	数研出版 数学C	教科担当			
副教材	数研出版 クリアー数学C				

1 教科の目標

ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 科目の目標

<p>【知識・技能】 ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
--

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数	
1 ・ 2 学期			(数学B)	知		
				思		
				主		
3 学期	1	第1章 『平面上のベクトル』	第1節「平面上のベクトルとその演算」 1. 平面上のベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積	知	ベクトルの演算の仕組みを理解し、ベクトルについて、加法、減法、実数倍を考察することができる。 ベクトルの分解について理解し、ベクトルを2つのベクトルの1次結合の形に表現できる。 点の座標とベクトルの成分の関係について理解している。 大きさとなす角でベクトルの内積を計算することができる。また、成分表示されたベクトルの内積を計算することができる。	10
	2			思		
		主		ベクトルの演算に興味、関心をもち、数式の演算法則との類似性を考察しようとする		

3				<p>る。</p> <p>ベクトルと座標平面を関連させ、ベクトルが成分で表現できることに興味、関心をもつ。</p> <p>座標平面上の図形の問題について、ベクトルを活用して解く解法を知り、ベクトルを用いない場合の解法と比較して考察しようとする。</p> <p>ベクトルの内積のもつ図形的意味を探ろうとする態度がある。</p>	
			<p>第2節「ベクトルと平面図形」</p> <p>5. 位置ベクトル</p> <p>6. ベクトルと図形</p> <p>7. ベクトル方程式</p>	<p>知</p> <p>線分の内分点、外分点、三角形の重心を位置ベクトルで表す公式を理解している。</p> <p>線分上の点を、線分を $s : (1-s)$ に内分する点として処理できる。</p> <p>直線のベクトル方程式について、媒介変数を用いて表すことができる。</p> <p>通る1点と法線ベクトルから直線の方程式を求めることができる。</p> <p>円や円の接線のベクトル方程式を理解している。</p>	8
				<p>思</p> <p>位置ベクトルを活用して、図形の性質が考察できる。</p> <p>ベクトルの分解の一意性を理解し、計算に利用できる。</p> <p>直線上の点を位置ベクトルで考察し、直線のベクトル方程式と関連付けることができる。</p> <p>点が線分 AB 上に存在する条件を活用して、点 P の存在範囲を考察することができる。</p>	
			<p>主</p> <p>線分 AB を $m:n$ に外分する点の位置ベクトルを表す式が、m と n の大小関係に関わらず同じであることに興味をもち、確かめようとする。</p> <p>位置ベクトルを用いて、平面図形についての命題を証明しようとする。</p> <p>点と直線の距離の公式が、ベクトルを利用して導けることに興味をもち、公式を証明しようとする。</p>		
	第2章『空間のベクトル』	<p>1. 空間の座標</p> <p>2. 空間のベクトル</p> <p>3. ベクトルの成分</p> <p>4. ベクトルの内積</p> <p>5. 位置ベクトル</p> <p>6. ベクトルと図形</p> <p>7. 座標空間における図形</p>	<p>知</p> <p>空間のベクトルを、3つのベクトルの1次結合の形に表現できる。</p> <p>成分表示されたベクトルを、3つのベクトルの1次結合の形に表現できる。</p> <p>立体図形におけるベクトルの内積を、適切な方法で計算できる。</p> <p>位置ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解して、それらを利用できる。</p>	12	
			<p>思</p> <p>空間のベクトルを、平面上のベクトルの拡張として捉えることができ、平面上のベクトルで成り立つ性質が、空間においても同様に成り立つことを理解している。</p> <p>空間のベクトルの成分表示を、平面上のベクトルの拡張として捉えることができる。</p> <p>空間のベクトルの内積を、平面上のベクトル</p>		

				<p>ルの拡張として捉えることができる。 球面と平面が交わってできる図形を、連立方程式の解の集合として捉えることができる。</p>
			主	<p>既知である平面の座標の概念を空間の座標に拡張しようとする。 四面体の重心に興味をもち、その性質を位置ベクトルで考察しようとする。 球面の方程式に興味をもち、考察しようとする。 座標空間における平面の方程式、直線の方程式に興味をもち、考察しようとする。</p>

年間授業計画

科目(講座名)	化学基礎	2単位	必履修	学年	2年
教科書 副教材	化基 703 「化学基礎 academia」 実教出版 セミナー化学基礎+化学 第一学習社	教科担当			

1 教科の目標

<p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、現象などに関する技能を身に付けるようにする。(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
--

2 科目の目標

<p>【知識及び技能】日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数
1 学 期	4	序 化学と人間生活 さまざまな物質とそれらの利用 物質の探究	・生活の中での、さまざまな物質の利用について再発見をし、人間生活における役割について理解を深める。 実験や観察を通して、探究の活動について理解を深める。	知 ・自然界のしくみには、基本的な概念・原理・法則があることを理解できる。 ・基本的な実験を通し、観察法や実験の意味を考察することができる。	1
	5	1章 1節 物質の探究 2節 物質の構成粒子	物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。 構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。	思 ・化学の成果が人間生活の向上に果たした役割を、具体例を踏まえて考察できる。 主 ・化学と人間生活における役割について関心を示し、理解しようとする。	
	6	2章 1節 イオン結合 2節 共有結合と分子間力	イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオン結合およびイオン結合からなる物質の性質を理解する。 共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。さらに、分子間にはたらく力により物質ができていないことを理解する。	知 ・物質の構成粒子や量的関係に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 ・熱運動と物質の三態との関係から、代表的な物質について、常温、常圧での状態を理解し、知識として身につけている。 ・実験において、質量や体積などの定量的な測定方法の技能が習得できているとともに、実験の測定結果から量的関係を的確に表現できる。 ・物質の状態に関して観察、実験を行い、それらに関する技能を習得し、それらの測定結果から物質の状態について考察できる。	18
	7	3節 金属結合 4節 化学結合と物質	金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を理解する。 1～3節において学んだ物	思 ・原子は原子核と電子からなっていて、電子の状態が物質の性質に大きく寄与していることを推論できる。 ・物質の状態変化は、構成粒子の分子運動に関係し、それが温度や圧力によるものであることを論理的、総合的に判断できる。 ・周期表から大まかな性質が判断できる。	

			質の結晶を、結合の違いによって区別し、性質を整理する。具体的な物質について、それぞれ性質や利用例を理解する。	主	<ul style="list-style-type: none"> 物質に関心をもち、物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子からなっていることを探究しようとしている。 物質の状態変化の現象について、粒子の運動と関連付けて探究しようとする。 		
	3章 1節 物質質量と化学反応式	原子量・分子量・式量などの物質質量の基本事項を学ぶ。 物質質量と溶液の濃度の関係を学ぶ。		知	<ul style="list-style-type: none"> 化学式を使用できるとともに、原子量、分子量、式量と物質質量の知識を身につけている。 	8	
			思	<ul style="list-style-type: none"> 原子量・分子量・式量と物質質量の定義を理解し、物質質量を用いた基本的な計算ができ、化学変化には一定の量的関係があることを考察できる。また、物質質量と溶液の濃度の関係を考察できる。 考察して導き出した考えを的確に表現できる。 表や図のデータなどから物質の性質を分析できる能力を身につけている。 			
			主	<ul style="list-style-type: none"> 代表的な物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質質量と関連付けて考察しようとするとともに、意欲的にそれらを探究しようとする。 			
		化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 化学の進歩の歴史と基本的な法則の発見の経緯について理解する。		知	<ul style="list-style-type: none"> 物質質量の概念を用いて、化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身につけている。 化学反応式と量的関係が大きく関わっていることを実験を通して導くことができる。 	8	
			思	<ul style="list-style-type: none"> 化学反応式から物質質量の定義を理解し、物質質量を用いた基本的な計算ができ、化学変化には一定の量的関係があることを考察できる。 考察して導き出した考えを的確に表現できる。 表や図のデータなどから物質の性質を分析できる能力を身につけ、観察、実験の過程や結果および数的な処理から、自ら考えを導き出したり、実験報告書を作成したり、発表したりできる。 			
			主	<ul style="list-style-type: none"> 代表的な物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質質量と関連付けて考察しようとするとともに、意欲的にそれらを探究しようとする。 			
2 学期	8	2節 酸と塩基	水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係および pH について理解する。 酸と塩基の性質と、中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。	知	<ul style="list-style-type: none"> 酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連づけて酸・塩基反応を捉えることができる。 pH の指標の便利さと実用性を理解している。 酸・塩基の量的関係から濃度未知の酸や塩基の濃度を求める技能を修得している。 酸塩基指示薬や pH メータなどが扱え、身近な物質の pH 測定方法を習得している。 	14	
					思		<ul style="list-style-type: none"> 酸・塩基の観察、実験をもとに共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて酸・塩基反応を考察できる。 また、酸・塩基の中和反応についても考察できる。 考察して導き出した考えを的確に表現できる。
					主		<ul style="list-style-type: none"> 酸・塩基や中和反応に関心をもち、それらを日常生活に関連づけて意欲的に探究しようとする。 身近な物質の pH を測定して考察するなど、身近な現象と酸・塩基反応を関連づけて、延長上には中和反応にも関連しているということを意欲的に探究しようとする。
		3節 酸化還元反応	酸化・還元 の定義を理解し、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。	知	<ul style="list-style-type: none"> 電子の授受や酸化数の変化から酸化還元反応を理解し、知識を身につけている。 酸化・還元 の定義を理解し、日常生活と関連づけて酸化還元反応を捉えることができる。 	8	
			思	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな観察、実験を通し、酸化・還元反応の定義と酸化数の定義の有効性を理解し、共通性を見だし、酸化還元反応として論理的に考察できる。 			

11	12	酸化剤と還元剤の反応と酸化還元反応の起こりやすさの関係を理解する。	主	・身近にあるものから酸化還元反応との関連性を見だし、論理的に考察し、科学的に判断できる。	8				
				・燃焼などの酸化還元反応に興味をもち、それらの共通性を意欲的に探究する。 ・身近な現象と酸化還元反応を関連付けて意欲的に探究しようとする。					
				酸化還元反応の例として、電池の実験を行い、その説明を科学的に表現できる。		主	・代表的な酸化剤、還元剤の観察、実験の報告書を作成する中で、電子の授受としての規則性を見だし、自らの考えで表現することができる。 ・金属のイオン化傾向とそれによる反応性の違いを理解している。		
							・酸化還元反応の例として、電池の実験を行い、その説明を科学的に表現できる。		
							・酸化剤・還元剤や金属の反応性の違いに興味をもち、それらの共通性を意欲的に探究する。 ・身近な現象と酸化還元反応を関連付けて意欲的に探究しようとする。		
				酸化還元反応と日常生活や社会生活との関わりについて理解する。 電池 電気分解について理解する。		知	・金属のイオン化傾向とそれによる反応性の違いを理解し、実用電池や電気分解、金属の製錬など身近に酸化還元反応が利用されていることを知っている。 電気分解について知っている	5	
							思		・酸化還元反応の代表的な例として、電池の実験を行い、その説明を化学的に表現できる。 ・実用電池や金属の製錬と酸化還元反応との関連性を見だし、論理的に考察し、科学的に判断できる。 電気分解のしくみを説明できる。
									主

3 学 期	1	学期認定の学			
	2	校設定科目			
	3	精選化学			

年間授業計画

科目(講座名)	精選化学	1 単位	必履修	学年	2 年
教科書 副教材	化学 703 「化学 academia」 実教出版 セミナー化学基礎+化学 第一学習社	教科担当			

1 教科の目標

自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1)自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，現象などに関する技能を身につけるようにする。(2)観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。(3)自然の事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。

2 科目の目標

【知識及び技能】化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身につけるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】観察，実験などを行い，化学的に探究する力を養う。(3)化学的な事物・事象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。
 【学びに向かう力、人間性等】化学的な事物・事象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数	
1 学期		化学基礎		知		
				思		
				主		
2 学期		化学基礎		知		
				思		
				主		
3 学期	1	3 章 1 節 元素と周期表	非金属元素の単体と化合物の性質や反応を周期表と関連させ理解する。	知	<ul style="list-style-type: none"> 非金属元素の単体・化合物の性質や反応について，周期表と関連づけながら理解し，知識を身につけている。 無機物質の性質や反応について，観察実験の基本操作や記録の仕方を習得するとともに，実験器具の選定や扱い方が身につけている。 観察，実験過程や結果から生じる問題や発見事項について，自ら考えを導き出して，新しい課題を設定することができる。 実験を通して，無機物質がどのように人間生活に利用されているかを理解している。 	17
	2	2 節 非金属元素		思		
	3	3 節 典型金属元素		主		
				知		
				思		
				主		
		金属元素の単体と化合物の性質や反応について理	知	<ul style="list-style-type: none"> 金属元素の単体・化合物の性質や反応について，周期表と関連づけながら理解し，知識を身につけている。 	18	

	4 節 遷移元素	解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・典型元素と遷移元素の特徴を正確に把握できている。 ・無機物質がその特徴を生かして人間生活の中で利用されていることを理解し、その知識を応用することができる。 ・無機物質の性質や反応について、観察実験の基本操作や記録の仕方を習得するとともに、実験器具の選定や扱い方が身についている。 ・観察、実験過程や結果から生じる問題や発見事項について、自ら考えを導き出して、新しい課題を設定することができる。 ・実験を通して、無機物質がどのように人間生活に利用されているかを理解している。 	
			<p style="text-align: center;">思</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活と関わりの深い無機物質について、観察実験を通して、規則性を見出し、さまざまな事象が生じる要因やしくみを科学的に考察して報告書にまとめることができる。 ・無機物質と化学工業との関係をさまざまな観点で捉え、科学的に考察、判断できる。 	
			<p style="text-align: center;">主</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無機物質について観察、実験を行うとともに、それらを日常生活と関連させたり、化学工業と関連づけて意欲的に探究したりしようとする。 	

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 理科 科目 物理

教科：理科 科目：物理 単位数：3 単位

対象学年組：第 1 学年 1/2/4/7組

教科担当者：竹花康男

使用教科書： 高等学校物理（第一学習社） セミナー物理基礎＋物理（第一学習社）

科目 物理 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代科学技術社会を読み解く科学的知識および科学的リテラシーの養成	現代技術社会を支える人材の育成および諸問題の科学的解決力	知的好奇心の涵養 他者との協働的態度

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	E 物体の運動 【知識及び技能】 基礎的知識の定着 【思考力、判断力、表現力等】 公式の導出 計算技能 応用課題 【学びに向かう力、人間性等】 旺盛な知的的好奇心 問題の協働的アプローチ 定期考査	平均の速さと瞬間の速さ 等速直線運動 速度 位置と変位 速度の合成 相対速度 加速度 等加速度直線運動 負の加速度運動	【知識・技能】 基本的知識・概念の定着 【思考・判断・表現】 標準的問題の理解 計算処理 図形処理 グラフ処理 【主体的に学習に取り組む態度】 学習目的の明確化（進路も含めて） 宿題 提出物 小テスト	○	○	○	8
				○	○		1
	G 落下運動 【知識及び技能】 基礎的知識の定着 【思考力、判断力、表現力等】 公式の導出 計算技能 応用課題 【学びに向かう力、人間性等】 旺盛な知的的好奇心 問題の協働的アプローチ 定期考査	重力加速度 自由落下鉛直投射 水平投射	【知識・技能】 基本的知識・概念の定着 【思考・判断・表現】 標準的問題の理解 計算技能 【主体的に学習に取り組む態度】 学習目的の明確化（進路も含めて） 宿題 提出物 小テスト	○	○	○	13
			○	○		1	
2 学期	H 力と運動の法則 【知識及び技能】 基礎的知識の定着 【思考力、判断力、表現力等】 公式の導出 計算技能 応用課題 【学びに向かう力、人間性等】 旺盛な知的的好奇心 問題の協働的アプローチ	力 重力 面にはたらく力 糸の張力 バネの弾性力 力の合成と分解 力の成分 力のつり合い 作用反作用の法則 慣性に法則 運動の法則 運動方程式	【知識・技能】 基本的知識・概念の定着 【思考・判断・表現】 標準的問題の理解 計算技能 【主体的に学習に取り組む態度】 学習目的の明確化（進路も含めて） 宿題 提出物 小テスト	○	○	○	16
	D 熱とエネルギー 【知識及び技能】 基礎的知識の定着 【思考力、判断力、表現力等】 公式の導出 計算技能 応用課題 【学びに向かう力、人間性等】 旺盛な知的的好奇心 問題の協働的アプローチ	熱運動と温度 熱の移動と熱量 熱容量と比熱 熱量の保存	【知識・技能】 基本的知識・概念の定着 【思考・判断・表現】 標準的問題の理解 計算技能 【主体的に学習に取り組む態度】 学習目的の明確化（進路も含めて） 宿題 提出物 小テスト	○	○	○	15
3 学期	A 波の性質 【知識及び技能】 基礎的知識の定着 【思考力、判断力、表現力等】 公式の導出 計算技能 応用課題 【学びに向かう力、人間性等】 旺盛な知的的好奇心 問題の協働的アプローチ	波動 波の進行と媒質の振動 単振動から正弦波へ 波の発生（周期 振動数 変位 振幅） 波の要素（波長 振幅 振動数と周期の関係） 波の速さ 波に2つのグラフ 横波 縦波	【知識・技能】 基本的知識・概念の定着 【思考・判断・表現】 標準的問題の理解 計算技能 【主体的に学習に取り組む態度】 学習目的の明確化（進路も含めて） 宿題 提出物 小テスト	○	○	○	10
	C 音波 【知識及び技能】 基礎的知識の定着 【思考力、判断力、表現力等】 公式の導出 計算技能 応用課題 【学びに向かう力、人間性等】 旺盛な知的的好奇心 問題の協働的アプローチ 定期考査	音の速さ 音の3要素 うなり 弦の固有振動 気柱の固有振動	【知識・技能】 基本的知識・概念の定着 【思考・判断・表現】 標準的問題の理解 計算技能 【主体的に学習に取り組む態度】 学習目的の明確化（進路も含めて） 宿題 提出物 小テスト	○	○	○	6
							合計 70
				○	○	○	1

年間授業計画

科目(講座名)	生物	3単位	選択	学年	2年
教科書	生物 703 高等学校 生物 啓林館	教科担当			
副教材	リードα生物 数研出版				
	スクエア図説生物 新課程版 第一学習社				

1 教科の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1)自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、現象などに関する技能を身につけるようにする。(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(3)自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 科目の目標

【知識及び技能】生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などを行い、生物学的に探究する力を養う。生物学的な事物・事象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

【学びに向かう力、人間性等】生物学的な事物・事象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数
1 学 期	4	第1章 生物の進化 第1節 生命の起源	○生命の起源と生物進化の道筋について理解する。	知 ○生命の起源と生命の変遷がわかる。 思 ○無機物から有機物が生成され、生物の誕生となる化学進化や、生命の起源を考えることができる。 主 ○生命の起源と生物進化の道筋について学び、生物進化がどのように起こってきたのかを調べようとする。	4
		第2章 有性生殖と遺伝的多様性 第1節 有性生殖 第2節 遺伝子の多様な組み合わせ	○減数分裂による遺伝子の分配と受精により多様な遺伝子的な組み合わせが生じることを理解する。 ○遺伝子の連鎖と組換えについて理解する。	知 ○無性生殖と比較して減数分裂の意義と受精の意義がわかる。 ○遺伝する形質のもとになる要素の遺伝子と染色体がわかる。遺伝子が独立の場合と、連鎖の場合、組換えが起こる場合とに分けて理解ができる。 思 ○減数分裂による遺伝子の分配と受精により多様な遺伝子的な組み合わせが生じることについて考えることができる。 ○顕性形質や潜性形質による遺伝の法則、遺伝子の連鎖と組換えにより遺伝子の組み合わせが変わることを考えることができる。 主 ○減数分裂による遺伝子の分配と受精により遺伝的に多様な組み合わせをもつ子が生じることを理解するとともに、遺伝子の連鎖と組換えについても調べようとする。	7
5		第3章 進化のしくみ 第1節 突然変異と進化 第2節 進化の要因	○生物進化がどのようにして起こるのかを理解する。 ○生物の遺伝と進化のかかわりや進化のしくみについて理解する。	知 ○進化を裏づける証拠がわかる。 ○生物の変異と進化、自然選択によるそのしくみがわかる。 【観察、実験】モデル実験を行い、遺伝的浮動や自然選択が遺伝子頻度を変化させる要因であることに気付かせ、遺伝子頻度が変化する要因を見いださせる。 思 ○遺伝的変異と、遺伝子重複の関係がわかる。 ○生殖的隔離と種分化の関係がわかる。 主 ○進化がどのように裏づけられ、そのしくみが	7

					どのように説明されているかを調べようとする。自然選択による進化を考える態度を育てる。					
6	7	第4章 生物の系統 第1節 生物の分類と系統 第2節 3ドメイン 第3節 細菌（バクテリア）ドメイン 第4節 アーキア（アーキア）ドメイン 第5節 真核生物ドメイン 第6節 人類の起源と進化	○生物はその系統に基いて分類できることを理解する。 ○ドメインによる分類について理解する。 ○細菌ドメインの特徴を理解する。 ○アーキアドメインの特徴を理解する。 ○真核生物の特徴とそれに含まれる生物を理解する。 ○人類の出現を、生物の進化の一部としてとらえさせるとともに、人類の進化を理解する。 ○細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴を理解する。 ○様々なタンパク質が様々な生命現象を支えていることを理解する。	知	○生物の分類と系統の規準がわかる。 ○分析技術の進展に伴う規準によって分類が変わることを理解する。 ○原核生物の細菌の特徴がわかる。 ○原核生物のアーキアの特徴がわかる。 ○原生生物・植物・菌・動物のそれぞれの分類と系統がわかる。 ○人類の起源と進化がわかる。	7				
				思	○生物はその系統に基いて分類できることを理解する。 ○ドメインによる分類を理解できる。 ○細菌の特徴を理解する。 ○アーキアの特徴を理解する。 ○真核生物は身近な生物を含む。それぞれの生物の大きな特徴を理解する。 ○人類の出現を樹上生活から地上生活への適応としてとらえたとともに、人類の進化を考えることができる。					
				主	○生物の分類の方法、系統を明らかにする方法、現在明らかになっている生物の系統を調べようとする態度が育っている。					
						第2部 生命現象と物質 第5章 生命と物質 第1節 物質と細胞 第2節 生命現象とタンパク質	知	○生物体を構成する有機物や無機物、細胞との関係がわかる。 ○タンパク質の構造や生命現象におけるタンパク質の役割がわかる。 【観察、実験】酵素反応に必要な条件について検討させ、実験の計画を立案させ、実験を行い、得られた結果を分析し解釈させ、高温によってタンパク質が不可逆的に変化することなどに気付かせる。	13	
				思	○細胞の内部構造とそれを構成する細胞小器官とよばれる様々な構造体や細胞骨格などの特徴、また、生体膜について考えることができる。 ○生体物質の円滑な合成では、酵素が、触媒として作用していることや、輸送物質・情報物質としてのタンパク質が様々な生命現象を支えていることを考えることができる。					
				主	○細胞小器官や細胞の働きをタンパク質の分子レベルで調べようとする。					
							第6章 代謝 第1節 代謝とエネルギー	知	○エネルギーの出入りとATPの分解・合成の関係がわかる。	1
				思	○エネルギーの出入りについて考えることができる					
				主	○エネルギーの出入りについて関心を持つ。					
				2 学期	7		第6章 代謝 第2節 呼吸 第3節 光合成	○呼吸によって有機物からエネルギーが作られる仕組みを理解する。 ○光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられるしくみを理解する。	知	○吸のしくみがわかる。発酵との共通点や相違点がわかる。 ○酸化炭素から糖をつくる炭酸同化がわかる。
思	○呼吸によって有機物からエネルギーがつくられるしくみや、発酵の反応との共通点を理解する。解糖系やクエン酸回路および電子伝達系について考えることができる。 ○水の分解に関係する反応系（光化学系Ⅱ）、NADP+の還元に関係する反応系（光化学系Ⅰ）およびカルビン回路、光合成をする細菌や化学合成細菌について考えることができる。									

8 9	第3部 遺伝情報の発現と発生 第7章 遺伝現象と物質 第1節 遺伝情報の複製 第2節 遺伝子の発現 第3節 遺伝子の発現調節	○DNAの複製のしくみを理解する。 ○遺伝子の発現のしくみの概要を理解する。 ○遺伝子の発現が調節されていることおよびそのしくみの概要を理解する。	主	○呼吸による有機物の分解や光合成に伴う有機物の合成の際にATPがはたす役割とエネルギーの出入りに注目する。呼吸の反応や光合成の反応が複数段階から成ることに興味をもつ。細菌の光合成や化学合成、生体内で窒素化合物がはたす役割について興味をもつ。	9
			知	○遺伝情報の複製のしくみがわかる。 ○原核生物と真核生物との遺伝子の発現について理解する。 ○原核生物と真核生物との遺伝子の発現調節のちがいがわかる	
10	第8章 発生と遺伝子の発現 第1節 動物の配偶子形成と受精	○配偶子形成と受精の過程について理解する。	思	○DNAの複製のしくみ、遺伝子の発現のしくみ(転写、スプライシング、翻訳)、遺伝子情報の変化(ナンセンス突然変異、ミスセンス突然変異、フレームシフト突然変異)およびゲノムの多様性を考えることができる。 ○原核生物と真核生物との遺伝子の発現の違いについて考えることができる。 ○環境に応じて発現する遺伝子の種類と量は異なり、トリプトファン代謝を例に、転写調節およびそのしくみの概要を考えることができる。	2
			主	○DNAの構造、遺伝情報の複製・転写・翻訳のしくみ、そして原核生物と真核生物とで異なる遺伝子発現の調節を学び、バイオテクノロジーの原理とその応用について調べようとする態度が育っている。	
10	第2節 初期発生の過程 第3節 発生と遺伝子の発現	○卵割から器官分化の始まりまでの過程について理解する。 ○細胞の分化と形態形成のしくみを理解する。	知	○初期発生の過程がわかる。 ○動物の細胞の分化と形態形成がわかる。	13
			思	○発生初期の細胞分裂である卵割から器官分化の始まりまでの過程について考えることができる。 ○細胞の分化と形態形成のしくみを考えることができる。また、特定の器官への分化を促す働きである誘導、そのような働きをする部分である形成体について考えることができる。	
11	第9章 バイオテクノロジー	○遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性を理解する。	主	①配偶子形成と受精、卵割から器官分化の始まりまでの過程について学び、細胞の分化と形態形成のしくみを調べようとする。	6
			知	○生物を利用する技術であるバイオテクノロジーがわかる。	
12	第4部 生物の環境応答 第10章 刺激の受容と反応 第1節 刺激の受容	○外界の刺激を受容する受容器について、その働きを理解する。	思	○遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性について考察し、ある特定のDNAの配列を切断する酵素の制限酵素、特定の遺伝子を組み込んで生物内で増殖させるベクター、特定のDNA領域を多量に増幅する方法(PCR法)など遺伝子を扱った技術について考えることができる。	2
			主	○バイオテクノロジーの様々な技術のほか、倫理的問題等にも関心を持つことができる。	
			知	○動物の刺激の受容がわかる。適刺激に応じた受容器があり、それぞれ特異な感覚を生ずることがわかる。	
			思	○外界の刺激を受容する受容器について眼や耳を中心に、そのはたらきを考えることができる。	
			主	○外界の刺激を受容し、神経系を介して、反応	

				するしくみを学び、受容器や効果器の各器官のはたらきを理解しようとする。		
3 学 期	1	第2節 神 經	○神経細胞が刺激を伝達するしくみを理解する。	知	○神経のしくみがわかる。伝導と伝達の相違点 がわかる。○○	5
	2	第3節 神経系		思	○神経系において情報を伝えたり処理する神 経細胞が、刺激を伝達するしくみを考えるこ とができる。	
		第4節 効果器		主	○外界の刺激を受容し、神経系を介して、反 応するしくみを学び、受容器や効果器の各器 官のはたらきを理解しようとする。	
			○受容器と効果器を結び つけている神経系のしく みを理解する。	知	○受容器と効果器を結びつけている神経系の 構造とはたらきがわかる。特にヒトの脳や脊 髄について十分な理解ができる。	5
				思	○神経系の種類や情報の伝導・伝達を考 えることができる。	
				主	○外界の刺激を受容し、神経系を介して、反 応するしくみを学び、受容器や効果器の各器 官のはたらきを理解しようとする。	
			○刺激に対し反応して働 く効果器の働きを理解す る。	知	○刺激に反応する器官である効果器がわか る。特に筋収縮について詳細なしくみがわか る。	5
				思	○刺激に対し反応して働く器官である効果 器の働きを、筋肉を中心に考えることができ る。	
				主	○外界の刺激を受容し、神経系を介して、反 応するしくみを学び、受容器や効果器の各器 官のはたらきを理解しようとする。	

高等学校 令和5年度（2学年 保健体育科） 理科 科目 物理基礎

教科：理科

科目：物理基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 保健体育科

教科担当者：（大野尚志）

使用教科書： 高等学校物理基礎（第一学習社） リードα物理基礎（数研）

科目 物理基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代科学技術社会を読み解く科学的知識および科学的リテラシーの養成	現代技術社会を支える人材の育成および諸問題の科学的解決力	知的好奇心の涵養 他者との協働的態度

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	E 物体の運動 【知識及び技能】 基礎的知識の定着 【思考力、判断力、表現力等】 公式の導出 計算技能 応用課題 【学びに向かう力、人間性等】 旺盛な知的的好奇心 問題の協働的アプローチ 定期考査	平均の速さと瞬間の速さ 等速直線運動 速度 位置と変位 速度の合成 相対速度 加速度 等加速度直線運動 負の加速度運動	【知識・技能】 基本的知識・概念の定着 【思考・判断・表現】 標準的問題の理解 計算処理 図形処理 グラフ処理 【主体的に学習に取り組む態度】 学習目的の明確化（進路も含めて） 宿題 提出物 小テスト	○	○	○	8
				○	○		1
	G 落下運動 【知識及び技能】 基礎的知識の定着 【思考力、判断力、表現力等】 公式の導出 計算技能 応用課題 【学びに向かう力、人間性等】 旺盛な知的的好奇心 問題の協働的アプローチ 定期考査	重力加速度 自由落下鉛直投射 水平投射	【知識・技能】 基本的知識・概念の定着 【思考・判断・表現】 標準的問題の理解 計算技能 【主体的に学習に取り組む態度】 学習目的の明確化（進路も含めて） 宿題 提出物 小テスト	○	○	○	13
			○	○		1	
2 学期	H 力と運動の法則 【知識及び技能】 基礎的知識の定着 【思考力、判断力、表現力等】 公式の導出 計算技能 応用課題 【学びに向かう力、人間性等】 旺盛な知的的好奇心 問題の協働的アプローチ	力 重力 面にはたらく力 糸の張力 バネの弾性力 力の合成と分解 力の成分 力のつり合い 作用反作用の法則 慣性に法則 運動の法則 運動方程式	【知識・技能】 基本的知識・概念の定着 【思考・判断・表現】 標準的問題の理解 計算技能 【主体的に学習に取り組む態度】 学習目的の明確化（進路も含めて） 宿題 提出物 小テスト	○	○	○	16
	D 熱とエネルギー 【知識及び技能】 基礎的知識の定着 【思考力、判断力、表現力等】 公式の導出 計算技能 応用課題 【学びに向かう力、人間性等】 旺盛な知的的好奇心 問題の協働的アプローチ	熱運動と温度 熱の移動と熱量 熱容量と比熱 熱量の保存	【知識・技能】 基本的知識・概念の定着 【思考・判断・表現】 標準的問題の理解 計算技能 【主体的に学習に取り組む態度】 学習目的の明確化（進路も含めて） 宿題 提出物 小テスト	○	○	○	15
3 学期	A 波の性質 【知識及び技能】 基礎的知識の定着 【思考力、判断力、表現力等】 公式の導出 計算技能 応用課題 【学びに向かう力、人間性等】 旺盛な知的的好奇心 問題の協働的アプローチ	波動 波の進行と媒質の振動 単振動から正弦波へ 波の発生（周期 振動数 変位 振幅） 波の要素（波長 振幅 振動数と周期の関係） 波の速さ 波に2つのグラフ 横波 縦波	【知識・技能】 基本的知識・概念の定着 【思考・判断・表現】 標準的問題の理解 計算技能 【主体的に学習に取り組む態度】 学習目的の明確化（進路も含めて） 宿題 提出物 小テスト	○	○	○	10
	C 音波 【知識及び技能】 基礎的知識の定着 【思考力、判断力、表現力等】 公式の導出 計算技能 応用課題 【学びに向かう力、人間性等】 旺盛な知的的好奇心 問題の協働的アプローチ	音の速さ 音の3要素 うなり 弦の固有振動 気柱の固有振動	【知識・技能】 基本的知識・概念の定着 【思考・判断・表現】 標準的問題の理解 計算技能 【主体的に学習に取り組む態度】 学習目的の明確化（進路も含めて） 宿題 提出物 小テスト	○	○	○	6
							合計 70
	定期考査			○	○	○	1

年間授業計画

科目(講座名)	生物基礎	2単位	必履修	学年	2年 保体 科
教科書 副教材	啓林館 高等学校 生物基礎	教科担当			

1 教科の目標

<p>自然の事物・現象に対する関心や探究心を高める。理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことを通して、科学的に探究する能力と態度を育てる。自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する</p>

2 科目の目標

<p>【知識及び技能】 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。</p>

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数
1 学期	4	序章 探究の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 大隅博士の研究の過程を探究の過程にあてはめ、探究の進め方の例示とする。 	知 探究の進め方がわかる。顕微鏡を正しく使え、適当なプレパラートを作ってスケッチできる。マイクロメータを用いて標本を正しく測定できる。	2
		第1章 生物の特徴		思 課題を発見し、仮説を適切に設定することができる。仮説の検証法を具体的に計画することができる。	
		第1節 生物の共通性と多様性		主 探究過程を追体験し、自らの周囲の自然に探究活動の課題を探る。	
	5	第2節 生物とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 現存する多様な生物には共通性があり、その共通性は共通の起源をもつことに由来することがわかる。 単細胞生物と多細胞生物の機能における共通性と多細胞生物の体の成り立ちがわかる。 	知 生物群の系統樹上での類縁関係がわかる。多様な生物の共通点がわかる。単細胞生物の構造とその働き、多細胞生物の器官の働き、細胞と組織の多様性がわかる。細胞小器官の名称と働きを理解し、原核生物と真核生物の共通点と相違点がわかる。	7
		思 生物としての共通の特徴をあげることができ、多様な生物群が単一の共通先祖に由来すると考えることができる。単細胞生物の構造と働き、多細胞生物の構造と働きの例をあげることができる。細胞小器官の名称と働きを理解し、原核生物と真核生物の共通点と相違点を考えることができる			
		主 多様な生物に関心を持ち、形態や生活の多様さを知ろうとする意欲を持っている。単細胞生物の構造の多様性と、多細胞生物の細胞と組織の多様性に関心を持つ。細胞小器官の特徴と働きに注目する。			
		・生命活動に必要なエネ	知 ATPが果たす役割について理解する。酵素反応の特徴を理解できる。	4	

6			ルギーと ATP についてわかる。 ・ATP と代謝についてわかる。	思	代謝におけるエネルギーについて考えることができる。酵素の働きについて考えることができる。		
				主	生命活動に必要なエネルギーと代謝について調べようとする。ATP とエネルギーの移動、酵素の役割について関心を持つ。		
		第2節 生物とエネルギー	・光合成により光エネルギーを用いて有機物がつくられ、呼吸により有機物からエネルギーが取り出されることがわかる。	知	光合成の場である葉緑体と呼吸の場であるミトコンドリアを理解する。		2
			思	細胞内での光合成の場と呼吸の場を葉緑体やミトコンドリアと関連させることができる。			
			主	光合成と呼吸の反応とエネルギーの転換を関連させて考えることができる。			
	7	第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝情報とDNA 第2節 遺伝情報とタンパク質の合成		・DNAが塩基の相補性に依存して二重らせん構造をもち、塩基の配列が遺伝情報となることがわかる。 ・体細胞分裂の分裂前に母細胞のDNAと同じ塩基配列のDNAが作られることがわかる。 ・細胞周期の間期（G1, S, G2期）と分裂期におけるDNA量の変化がわかる。	知	DNAの二重らせん構造と塩基の相補性の重要性が理解できる。遺伝情報の複製は塩基配列の相補的な複製であることが理解できる。DNAの抽出について理解する。細胞周期と体細胞分裂の各期の特徴が分かり、遺伝情報の分配の時期がわかる。	
					思	DNAの二重らせん構造における塩基配列が遺伝情報となると考えることができる。母細胞のDNAの複製は塩基配列の相補的な複製であることが表現できる。細胞周期と染色体の変化の関係を考えることができる。	
					主	遺伝子が親から子へと伝えられる因子であること、DNAの特徴について関心を持ち考えようとする。DNAが複製されることにより、遺伝情報が伝えられることを調べようとする。体細胞分裂と細胞周期が染色体の変化によって観察できることに関心を持つ。	
					知	塩基配列と遺伝情報の関係と、アミノ酸配列がタンパク質の種類を決める事を理解する。転写と翻訳の過程を理解し、遺伝情報が転写されたmRNAの役割を理解することができる。タンパク質が生命現象と関連して多様な働きをしていると考えることができる。	3
				思	DNAの塩基配列の情報がタンパク質のアミノ酸配列の情報になると対応することができる。遺伝情報である塩基配列が、アミノ酸配列に翻訳されると考えることができる。		
				主	タンパク質について感心をもつ。RNAとタンパク質の構造、および転写と翻訳のしくみに関心を持つ。		
	2 学期	8 9	第2節 遺伝情報とタンパク質の合成	・DNAの塩基配列の情報がタンパク質のアミノ酸配列の情報になることがわかる。 ・転写と翻訳における塩基配列からアミノ酸配列への情報の流れがわかる。タンパク質が酵素として働くことで、生命現象を支えていることがわかる。	知	遺伝情報はほとんどの細胞で維持されているが、遺伝子の発現は調節されていることがわかる。	2
			・すべての遺伝子が常に発現しているわけではなく、個体の部位に応じて発現している遺伝子が異なることがわかる。	思	個体を構成する細胞は遺伝的に同一で、部位によって発現する遺伝子が異なることができる。		
第3章 神経系と内分泌系による調節 第1節 情報の伝達 第2節 体内環境の維持のしくみ			・生物の体内環境が一定	主	遺伝情報をゲノムととらえることに関心を持つ。ゲノム医療など最新の医学的話題にも関心を持つ。		
				知	体内環境とは体液の環境であり、体内環境が一定に保たれていること、つまり恒常性が重要で	7	

10		<p>に保たれていること、体内環境とは体液の環境であることがわかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自律神経系によって心拍数が適切に保たれていることがわかる。 体内環境がホルモンにより調節されていることがわかる。 		<p>ある。体液（血液・リンパ液・組織液）の成分や働き、循環系を理解する。運動前後において、心拍数を計測することで、心拍数の変化を観察することができる。特定の内分泌腺からは特定のホルモンが分泌され、血液で運ばれてきた細胞に働く。ホルモン量はフィードバック調節されている。</p>		
			思	<p>生物の体内環境が一定に保たれていると考えることができ、循環系と体液の働き（酸素解離や血液凝固など）を考えることができる。動物の恒常性が自律神経により調節されていると考えることができる。ホルモンにより器官の活動が調節されており、その量はフィードバック調節されている。</p>		
			主	<p>体内環境の恒常性に関心を持ち、体液の成分、体液の働き、循環に興味を持つ。体内環境の恒常性に自律神経がかかわっていることを調べようとする。多様なホルモンが特定の内分泌腺から分泌されていることに関心を持つ。</p>		
		<ul style="list-style-type: none"> 体内環境は自律神経やホルモンの作用により一定の範囲に保たれていることがわかる。 体温調節は交感神経や、ホルモンの作用により保たれていることがわかる。 	知	<p>血糖濃度とインスリン濃度のグラフからインスリンの効果を読みとることができる。体温調節には、肝臓や筋肉汗腺が重要な働きをしていることがわかる。</p>	3	
			思	<p>血糖濃度や水分量、体温が、自律神経の働きやホルモンの作用により一定の範囲に保たれていると考えることができる。体液の恒常性における肝臓の働きを考えることができる。</p>		
			主	<p>自律神経とホルモンが共同して恒常性を維持していることに関心を持つ。肝臓の機能に関心を持ち、肝臓が体液の恒常性に果たす役割を知ろうとする。</p>		
	11	第2節 体内環境の維持のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 体液濃度が高い場合、水分調節はバソプレシンや、鉱質コルチコイドの作用により水が再吸収されることがわかる。 	知	<p>血しょうと尿の成分比較から腎臓での老廃物の濃縮率などを計算することができる。</p>	2
		思		<p>体液の恒常性における腎臓の働きを考えることができる。</p>		
		主		<p>腎臓の機能に関心を持ち、腎臓が体液の恒常性に果たす役割を知ろうとする。</p>		
		第4章 免疫 第1節 免疫の働き	<ul style="list-style-type: none"> 病原菌などの異物を認識、排除して体内環境を守るしくみがわかる。 非特異的な自然免疫の反応がわかる。 体液性免疫と細胞性免疫のそれぞれのしくみがわかる。 免疫が実際の病気とどのように関わっているのかわかる。 	知	<p>生体防御には異物に対する防御と自然免疫、獲得免疫があることを理解する。微生物が共通してもつパターンを認識しての防御反応であることを理解する。免疫寛容に関係するリンパ球の選択を理解する。生体に異物が侵入してから起こる経過を体液性免疫と細胞性免疫にわけて理解する。予防接種、ワクチンと免疫の関係がわかる。</p>	5
思		<p>マクロファージの食作用を観察して免疫について考えることができる。自然免疫を獲得免疫と対比させて考えることができる。体液性免疫と細胞性免疫を説明できる。アレルギーなどの免疫反応を例をあげて説明できる。</p>				
主		<p>免疫とそれにかかわる細胞の働きについて調べようとする。細菌などを食作用で除く生体防御反応である。免疫のしくみに関心を持つ。予防接種や感染症との関連も含めて、免疫に関する話題に興味を持つ。</p>				
12		<ul style="list-style-type: none"> 多様な植生が成立する要因には植物の環境への適応が関わっている。 陸上の植生が移り変わっていくこととその要因 	知	<p>植物の形態に環境への適応が現れる例があり、光要因も大きな要因のひとつであることが分かる。植生の一次遷移に伴って植物種数や地表照度、土壌の厚さ、土壌有機物%などの変化をグラフ化し、読みとることができる。</p>	5	
			思	<p>植物の生活形に影響する環境要因には主に水・</p>		

			がわかる。		土壌・温度・光がある。荒原が草原、森林へと変化してゆく過程には環境要因が関わっていることを考察する。		
				主	植物の生活に影響を及ぼす環境要因を考察する意欲を持つ。植生の変化に注目し、その要因に関心を持つ。		
3 学 期	1	第5章 植生と遷移 第1節 植生と遷移 第6章 生態系とその 保全	・気温と降水量の違いによって、地球上ではさまざまなバイオームが成立していることがわかる。 ・日本のバイオームの特徴がわかる	知	気温と降水量のデータから各地のバイオームを予想できる。水平分布、垂直分布がわかる。	4	
				思	バイオームが成立する際の環境要因について考えることができる。バイオームが成立する際の環境要因と日本の地理的な関係がわかる。		
				主	世界のバイオームの特色に関心を持つ。世界のバイオームの特色に関心を持つ。		
				知	土壌にすむ動物を観察することができる。キーストーン種について理解できる。		4
				思	生態系の成り立ちと構成要素について具体的な生物をあげて考えることができる。間接効果について考えることができる。		
				主	生態系をどのように把握できるか関心を持っている。ヒトデを除去すると、生態系を構成する生物の種数が変化することに関心を持ち生態系について理解しようとする。		
	2	第1節 生態系と生物 の多様性 第2節 生態系のバラ ンスと保全	・生態系のバランスについて理解する。 ・生物多様性の保全の重要性がわかる。	知	COD や下水道普及率のデータから、アオコの原因を推測できる生物多様性を保全することの重要性がわかる。	4	
				思	生態系のバランスについて考えることができる。外来生物の影響について考えることができる。生態系の保全が重要であると考えられる。絶滅と生息地の面積の関係について考えることができる。		
				主	生態系に与える人間生活の影響について関心をもっている。環境問題などについて関心をもっている。		

年間授業計画

科目(講座名)	体育	3単位	必履修	学年	2年
教科書 副教材	大修館(保体702) 新高等保健体育	教科担当			

1 教科の目標

<p>【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>
--

2 科目の目標

<p>【知識及び技能】 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することが出来るようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 運動における競争や協働の経験を通して公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>
--

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数	
1 学 期	4	体づくり運動 (男女共通)	〈体づくり運動〉 ・体ほぐしの運動・体の動きを高める運動・効率の良い組み合わせの実践・バランスのよい組み合わせの実践	知	定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることについて、言ったり書き出したりしている。	2
				思	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	
				主	仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い教え合おうとしている。一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしている。	
		球技；ネット型 (男子)	〈バレーボール〉 ・パス練習・サーブ練習・サーブレシーブ・ラリー・スパイクや三段攻撃・ゲーム ○一人1台端末の活用	知	役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	10
				思	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	
				主	仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い教え合おうとしている。一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしている。	
		球技：ベースボール型 (女子)	〈ソフトボール〉 ・バット操作 ・攻撃にかかわるボールを持たないときの動き ・ボール操作 ・守備にかかわるボールを	知	技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解している。	
				思	チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。	
				主	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプ	

			持たないときの動き		レイを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。		
		器械運動(男子)	〈マット運動〉 (回転系の技)接転技群・ほん転技群 (巧技系)平均立ち技群・組み合わせ演技 ○一人1台端末の活用	知	技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあり、同じ系統の技には共通性があることについて、学習した具体例を挙げている。学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで静止することができる。	10	
				思	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。		
				主	仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い教え合おうとしている。一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしている		
		球技：ゴール型(女子)	〈バスケットボール〉 ・パス練習・レイアップシュート・ドリブル・パスからのシュート・ドリブルシュート・ゲーム ○一人1台端末の活用	知	安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への進入などから攻防をすることができる。	2	
				思	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。		
				主	仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い教え合おうとしている。一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしている		
	7	体育理論(男女共通)	〈体育理論〉 ・スポーツの発祥と成立	知	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	2	
				思	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。		
				主	スポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。		
2 学期	7	水泳(男女共通)	〈水泳〉 クロール・平泳ぎ・背泳ぎ ・息継ぎ・フォーム・リレー・測定	知	各種の泳ぎについて正しいイメージをもつことができる。また手と足のコンビネーション、手の動作と呼吸のタイミングなどの技能を習得し、正しいフォームで速く、長く泳ぐことができる。	8	
				思	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。		
				主	スポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。		
		10	体づくり運動(男女共通)	〈体づくり運動〉 ・体ほぐしの運動・体の動きを高める運動・効率の良い組み合わせの実践・バランスのよい組み合わせの実践	知	1学期 体づくり運動(男女共通)に準ずる。	2
				思			
				主			
			球技：ゴール型(男子)	〈バスケットボール〉 1学期に準ずる。	知	1学期 球技：ゴール型(女子)〈バスケットボール〉に準ずる。	9
				思			
				主			
			器械運動(女子)	〈マット運動〉 1学期に準ずる。	知	1学期 器械運動(男子)〈マット運動〉に準ずる。	9
			思				
			主				
		球技：ネット型(男子)	〈バレーボール〉 1学期に準ずる。	知	1学期 球技：ネット型(女子)〈バレーボール〉に準ずる。	9	
			思				
			主				
		陸上競技(女子)	〈短距離走〉〈ハードル〉 1学期に準ずる。	知	1学期 陸上競技(男子)〈短距離走〉〈ハードル〉に準ずる。	2	
			思				
			主				
	12	体育理論(男女共通)	〈体育理論〉 ・スポーツ文化の発展と現	知	1学期 体育理論(男女共通)に準ずる。	2	
				思			

			代社会	主		
3 学 期	1	体づくり運動 男女共通	〈体づくり運動〉 ・体ほぐしの運動・体の動き を高める運動・効率の良い組 み合わせの実践・バランスの よい組み合わせの実践	知	1学期 体づくり運動（男女共通）に準ずる。	2
				思		
				主		
		陸上競技 (男女共通)	〈持久走〉 ・ランニングフォーム・ペ ース走・測定 ○一人1台端末の活用	知	長距離走ではペースの変化に対応して走る ことができる。	6
				思		
				主		
		球技：ゴール型 (男子)	〈サッカー〉 ・ボールコントロール・キ ック・パス、トラッピング ・ドリブル・シュート・ ゲーム ○一人1台端末の活用	知	安定したボール操作と空間を作り出すなどの 動きによってゴール前への進入などから攻防 をすることができる。	6
				思		
				主		
		球技：ネット型 (女子)	〈バドミントン〉 ・サービス・ストローク・ フライト・ゲーム ○一人1台端末の活用	知	役割に応じたボール操作や安定した用具の操 作と連携した動きによって空いた場所をめぐ る攻防をすることができる。	6
				思		
				主		
3	体育理論 (男女共通)	〈体育理論〉 ・オリンピック・パラリン ピックと国際社会	知	1学期 体育理論（男女共通）に準ずる。	2	
			思			
			主			

年間授業計画

科目(講座名)	保健	1 単位	必履修	学年	2 年
教科書 副教材	大修館 (保体 702) 新高等保健体育	教科担当			

1 教科の目標

<p>【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>
--

2 科目の目標

<p>【知識及び技能】 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けてし思考し判断しているとともに目的や状況に応じて他者に伝えている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。</p>

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数	
1 学 期	4	健康を支える環境づくり	大気汚染と健康 水質汚濁・土壌汚染と健康	知	大気汚染の汚染源と汚染物質、それによる健康被害、水質汚濁・土壌汚染の実態とそれらの対策について理解している。	12
				思	健大気汚染と水質汚濁・土壌汚染と健康について課題を発見し、健康や環境に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断し、表現している。	
				主	健康を支える環境づくりの学習に主体的に取り組もうとしている。	
	5	健康被害を防ぐための環境対策 環境衛生に関わる活動	健康被害を防ぐための環境対策 環境衛生に関わる活動	知	健康被害を防ぐための環境対策と環境衛生に関わる活動について理解している。	
				思	健康被害を防ぐための環境対策、環境衛生に関わる活動について課題を発見し、健康や環境に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断し、それらを表現している。	
				主	健康を支える環境づくりの学習に主体的に取り組もうとしている。	
	6	食品の安全性と健康 食品の安全性を確保する取り組み	食品の安全性と健康 食品の安全性を確保する取り組み	知	食品の安全性と健康、食品の安全性を確保する取り組みについて理解している。	
				思	食品の安全性と健康、食品の安全性を確保する取り組みについて課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断し表現している。	
				主	健康を支える環境づくりの学習に主体的に取り組もうとしている。	
7			知	食品の安全性と健康、食品の安全性を確保する取り組みについて理解している。		
			思	食品の安全性と健康、食品の安全性を確保する取り組みについて課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断し表現している。		
			主	健康を支える環境づくりの学習に主体的に取り組もうとしている。		

2 学 期	9	健康を支える環 境づくり	保険制度とその活用 医療制度とその活用 医薬品の制度とその活用	知	保険制度、医療制度、医薬品の制度の活用を理解している。	15
				思	保険制度、医療制度、医薬品の制度の活用について課題を発見し、その原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断し表現している	
				主	保険制度、医療制度、医薬品の制度の活用の学習に主体的に取り組もうとしている。	
	10		様々な保健活動や対策 誰もが健康に過ごせる社会 に向けた環境づくり	知	様々な保健活動や対策誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくりについて理解している。	
				思	様々な保健活動や対策誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくりについて課題を発見し、その原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断し表現している	
				主	健康を支える環境づくりの学習に主体的に取り組もうとしている。	
	11			知	自分の身の回りに存在する保健に関する問題や事柄について理解している。	
				思	保健研究発表やテーマについて課題を発見し、その解決方法を思考し判断し表現している	
				主	保健研究発表に主体的に取り組もうとしている。	
	12		保健研究発表	知	自分の身の回りに存在する保健に関する問題や事柄について理解している。	
				思	保健研究発表やテーマについて課題を発見し、その解決方法を思考し判断し表現している	
				主	保健研究発表に主体的に取り組もうとしている。	
3 学 期			保健研究発表	知	自分の身の回りに存在する保健に関する問題や事柄について理解している。	8
				思	保健研究発表やテーマについて課題を発見し、その解決方法を思考し判断し表現している	
				主	保健研究発表に主体的に取り組もうとしている。	

年間授業計画

科目(講座名)	スポーツ概論	1単位	必履修	学年	2年
教科書 副教材	大修館 基礎から学ぶスポーツ概論改訂版	教科担当			

1 教科の目標

<p>【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に与える力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。</p>
--

2 科目の目標

<p>【知識及び技能】 運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。</p>
--

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数	
1 学期		スポーツの文化的特性や現代におけるスポーツの発展Ⅱ	・スポーツの文化的な特性・スポーツの発展に必要な事柄について理解を深める	知	スポーツの文化的特性や現代におけるスポーツの発展について理解している	6
				思	スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展について「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方等において理由を添えて他者に伝えている	
				主	スポーツの文化的特性や現代におけるスポーツの発展の学習に主体的に取り組もうとしている	
		現代スポーツの問題点	・現代スポーツの問題点を掘り下げ、考察する	知	運動やスポーツの特性について理解している	6
思	運動やスポーツの特性について「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方において、スポーツを推進及び発展させられている					
2 学期		競技力向上を目的とした取り組み	・競技力向上について理解を深め、計画する ・[する、みる、支える、知る]など、スポーツを多様な視点から考え、課題を発見する話し合い活動・グループ討議に取り組む	知	競技力向上について理解できるとともに、自己の行動計画を作成し、理解している	6
				思	競技力向上について「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方において、スポーツを推進及び発展させる視点から課題を発見し、より良い解決に向けて思考し、判	

					断するとともに、理由を添えて他社に伝えている	
				主	競技力向上についての学習に主体的に取り組もうとしている	
		競技力を向上させる練習方法・練習計画	・競技力を向上させる練習方法・練習計画について理解を深め、実技等を通して実践する	知	競技力を向上させる練習方法・練習計画と健康・安全について理解している	6
				思	競技力を向上させる練習方法・練習計画について「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方においてスポーツを発展させる視点から課題を発見し、より良い解決に向けて思考し判断するとともに、理由を添えて他社に伝えている	
				主	競技力を向上させる練習方法・練習計画について主体的に取り組もうとしている	
3 学 期		体力トレーニング	・体力トレーニングの基礎知識について理解を深め、実際に行う	知	体力トレーニングについて理解するとともに、スポーツ大会等の企画ができる	8
				思	体力トレーニングについて「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方を通して、スポーツを推進及び発展させる視点から課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、理由を添えて他者に伝えている	
				主	体力トレーニングについて学習に主体的に取り組もうとしている	

年間授業計画

科目(講座名)	スポーツ総合演習	1単位	必履修	学年	2年
教科書 副教材	大修館(保体702) 新高等保健体育	教科担当			

1 教科の目標

<p>【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>
--

2 科目の目標

<p>【知識及び技能】 運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている</p>
--

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数
1 学 期		スポーツの多様な理論や実践に関する課題研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関心のあるスポーツの多様な発展や普及の歴史及び現状さらには文化的特性などを過去の文献から整理し、自らの考えをまとめる ・ スポーツの局面に着目して、戦況の変化を導き出したプレイや対戦相手の戦術の特徴などについて、記録データやビデオ等の映像から分析する 	知 目的、手順、所定の手続きに基づくデータの整理、考察、結論の手順でレポートが作成できる。	12
				思 スポーツの多様な指導や企画と運営についての課題を発見している。	
				主 スポーツの多様な指導や企画と運営に関する課題研究に主体的に取り組もうとしている。	
2 学 期		スポーツの多様な指導や企画と運営に関する課題研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ大会やスポーツイベントの企画・運営の仕方について学習したことを活用し、対象に応じて作成した運営マニュアルを検証する ・ 関心のあるスポーツの公式ルールや審判法について調べ、感じ取ったことをまとめる 	知 目的、手順、所定の手続きに基づくデータの整理、考察、結論の手順でレポートが作成できる。	15
				思 スポーツの多様な指導や企画と運営についての課題を発見している。	
				主 スポーツの多様な指導や企画と運営に関する課題研究に主体的に取り組もうとしている。	

3 学 期		スポーツを通じた多様な社会参画に関する課題研究	・多様なスポーツ推進のための調べ学習を通して、全ての人々が参画できるスポーツの在り方や仕組みについて提案する	知	目的、手順、所定の手続きに基づくデータの整理、考察、結論の手順でレポートが作成できる。	8
				思	スポーツの多様な指導や企画と運営についての課題を発見している。	
				主	スポーツの多様な指導や企画と運営に関する課題研究に主体的に取り組もうとしている。	

年間授業計画

科目(講座名)	専門実技 スポーツⅠ～Ⅳ、Ⅵ	2単位	必履修	学年	1・2年
教科書 副教材	大修館(保体702) 新高等保健体育	教科担当			

1 教科の目標

<p>【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>
--

2 科目の目標

<p>【知識及び技能】 スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組む態度を養う。</p>
--

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数
1 学 期		バレーボール 体操競技 ダンス バスケットボール 柔道 剣道 水泳 陸上競技 サッカー 体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> 他者と学び合う場面で、基本的な技の見本や改善のポイントを身体及び言葉などで他者に示す 危機回避の際の行動及び事故発生時の応急手当について学習する 一人一台端末の活用 	知 各種目について、技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、試合運営や発表の仕方などを理解している。	48
				思 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられる。	
				主 すべての競技に対して主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとしていること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしていることなどや、健康・安全を確保している。	
2 学 期		ダンス 体操競技 体づくり運動 サッカー バドミントン 水泳 ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> 練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案する 体力や技能の程度、性別や目的など、様々な違い 	知 各種目について、技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、試合運営や発表の仕方などを理解している。	60
				思 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な	

		柔道 剣道	<p>を超えて、スポーツを楽しむために調整し合意したマナーを実践する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末の活用 		<p>解決に向けて取り組み方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられる。</p>	
				主	<p>すべての競技に対して主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとしていること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしていることなどや、健康・安全を確保している。</p>	
3 学 期		持久走 サッカー ダンス テニス バレーボール 陸上競技	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンス発表会など、目的に応じた企画や運営をする ・発見した動きの改善点や、効果的な改善策について、活動場面で判断し仲間に伝える 	知	<p>各種目について、技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、試合運営や発表の仕方などを理解している。</p>	32
				思	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられる。</p>	
				主	<p>すべての競技に対して主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとしていること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしていることなどや、健康・安全を確保している。</p>	

年間授業計画

科目(講座名)	専攻実技	2単位	必履修	学年	1・2年
教科書 副教材	大修館(保体702) 新高等保健体育	教科担当			

1 教科の目標

<p>【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>
--

2 科目の目標

<p>知識及び技能】 スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組む態度を養う。</p>

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数
1 学 期		サッカー・バスケットボール・バレーボール、陸上競技、体操競技、水泳、剣道、柔道	<ul style="list-style-type: none"> 各専攻種目における技術向上 一人一台端末の活用等 	知 各専攻種目について、技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、試合運営や発表の仕方などを理解している。	24
				思 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられる。	
				主 すべての競技に対して主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとしていること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしていることなどや、健康・安全を確保している。	
2 学 期		サッカー・バスケットボール・バレーボール、陸上競技、体操競技、水泳、剣道、柔道	<ul style="list-style-type: none"> 各専攻種目における技術向上 一人一台端末の活用等 	知 各専攻種目について、技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、試合運営や発表の仕方などを理解している。	30
				思 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫していること	

					もに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられる。	
				主	すべての競技に対して主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとしていること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしていることなどや、健康・安全を確保している。	
3 学 期		サッカー・バスケットボール・バレーボール、陸上競技、体操競技、水泳、剣道、柔道	<ul style="list-style-type: none"> ・各専攻種目における技術向上 ・一人一台端末の活用等 	知	各専攻種目について、技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、試合運営や発表の仕方などを理解している。	16
				思	生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられる。	
				主	すべての競技に対して主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとしていること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしていることなどや、健康・安全を確保している。	

年間授業計画

科目(講座名)	英語コミュニケーションⅡ	3単位	必修	学年	2年
教科書 副教材	Element English Communication Ⅱ (啓林館)、 Cutting Edge Green & Blue (エミル出版) 等	教科担当			

1 教科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、5つの領域において言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

2 科目の目標

【知識及び技能】

英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて活用できる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えの要点、詳細、話し手や書き手の意図等を的確に理解し、適切に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数	
1 学 期	4	Lesson1, Lesson2 Cutting Edge Green Lesson 11	<異文化理解> あなたの国の位置は? 文化の世界地図	知	平易な英語で書かれた短い物語を読んで、必要であれば読み直したりしながら、概要を理解することができる。	6
				思	自分やごく身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて書いたり話のあらすじを伝えることができる。	
				主	自ら進んで学ぼうとすることができる。	
	5		<スピーチ・生き方> ステイブ・ジョブズの名スピーチ	知	本文の英語を聞いたり読んだりして理解することができる。	6
				思	英語で自分の意見を表明することができる。	
				主	自分の学習の見通しを立て、振り返りをして学ぼうとすることができる。	
	6	Lesson3, Lesson4	<ジェンダー・ファッション> ピンクは女の子の色? 先入観はどこから来たか	知	平易な英語で書かれた短い物語を読んで、必要であれば読み直したりしながら、概要を理解することができる。	8
				思	自分やごく身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて書いたり話のあらすじを伝えることができる。	
				主	自ら進んで学ぼうとすることができる。	
7		<平和・人権> 2,500人のユダヤ人を 救った命のリスト	知	本文の英語を聞いたり読んだりして理解することができる。	8	
			思	英語で自分の意見を表明することができる。		
			主	自分の学習の見通しを立て、振り返りをして学ぼうとすることができる。		
2 学 期	8 9	Lesson5 Lesson6 Cutting Edge	<心理・経済> 予想通りに不合理?	知	平易な英語で書かれた短い物語を読んで、必要であれば読み直したりしながら、概要を理解することができる。	9

10	Green Lessons 12-15	買い物の心理トリック	思	自分やごく身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて書いたり話のあらすじを伝えることができる。	9		
			主	自ら進んで学ぼうとすることができる。			
		<現代社会・家族愛> ぼくの名前は… 25年目の「ただいま」	知	本文の英語を聞いたり読んだりして理解することができる。			
			思	英語で自分の意見を表明することができる。			
	11	Lesson7 Lesson8 Cutting Edge Green Lesson 16	<医学・科学技術> 世紀の大発見 iPS細胞とは	知		平易な英語で書かれた短い物語を読んで、必要であれば読み直したりしながら、概要を理解することができる。	7
				思		自分やごく身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて書いたり話のあらすじを伝えることができる。	
				主		自ら進んで学ぼうとすることができる。	
		12	<歴史・科学技術> ガラスから見る歴史 発明の連鎖がつくる世界	知		本文の英語を聞いたり読んだりして理解することができる。	6
				思		英語で自分の意見を表明することができる。	
				主		自分の学習の見通しを立て、振り返りをして学ぼうとすることができる。	
	3 学期	1 2 3 Cutting Edge Green Lessons 16-18	CEFR 尺度に基づいたコミュニケーション活動	知		平易な英語で書かれた短い物語を読んで、必要であれば読み直したりしながら、概要を理解することができる。	12
				思		自分やごく身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて書いたり話のあらすじを伝えることができる。	
主				自ら進んで学ぼうとすることができる。			
Cutting Edge Blue Lessons 1~6		CEFR 尺度に基づいたコミュニケーション活動	知	本文の英語を聞いたり読んだりして理解することができる。	13		
			思	英語で自分の意見を表明することができる。			
			主	自分の学習の見通しを立て、振り返りをして学ぼうとすることができる。			

年間授業計画

科目(講座名)	論理・表現Ⅱ	2単位	必修	学年	2年
教科書 副教材	Vision Quest English Logic and Expression II システム英作文 改訂版 Write to the Point Hyper Listening Essential 2.5 CNN Vintage Drive スマコレ	教科担当			

1 教科の目標

英語による4技能の言語活動を通して、情報や考えを的確に理解し、表現する能力を育成する。目的や場面、状況などに応じて適切に知識を活用出来る技能を身につけるようにする。主体的、自立的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2 科目の目標

【知識及び技能】
重要な文法項目を確認し、語彙力を伸ばし。速く正確に英文を読み取る力を養う

【思考力、判断力、表現力等】
聞いたり読んだりして得た情報や考えなどを論理的に発信できるようにする

【学びに向かう力、人間性等】
英語でのコミュニケーションを通して自分の考えを伝え、相手の意図することを理解する

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数	
1 学期	4	L1~L4 文と文をつなぐ パラグラフ構成	ビジョンクエストⅡ システム英作文 スマコレ JETとの授業 CNN Hyper Listening 英語の構文80 定期考査	知	英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きに関する事項及びその働きや役割を理解している。 英語で自分の意見を表明することが出来る。 自分の学習の見通しを立て、振り返りをして学ぼうとすることができる。	10
				思		
				主		
	5	L1~4 無生物主語 関係詞 接続詞 時制	ビジョンクエストⅡ システム英作文 スマコレ JETとの授業 CNN Hyper Listening 英語の構文80 定期考査	知	英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きに関する事項及びその働きや役割を理解している。 英語で自分の意見を表明することが出来る。 自分の学習の見通しを立て、振り返りをして学ぼうとすることができる。	15
				思		
				主		
2 学期	8	L9~L12 発話活動	ビジョンクエストⅡ システム英作文 スマコレ JETとの授業 CNN Hyper Listening Essential 2.5 英語の構文80 定期考査	知	英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きに関する事項及びその働きや役割を理解している。 英語で自分の意見を表明することが出来る。 自分の学習の見通しを立て、振り返りをして学ぼうとすることができる。	18
				思		
				主		
	9	L8~11 動名詞 分詞 態 比較	ビジョンクエストⅡ システム英作文 スマコレ JETとの授業 CNN Essential 2.5 英語の構文80 定期考査	知	英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きに関する事項及びその働きや役割を理解している。 英語で自分の意見を表明することが出来る。 自分の学習の見通しを立て、振り返りをして学ぼうとすることができる。	13
				思		
				主		
10	Activity 1,2,3	ビジョンクエストⅡ システム英作文 スマコレ JETとの授業 CNN Essential 2.5 英語の構文80 定期考査	知	英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きに関する事項及びその働きや役割を理解している。 英語で自分の意見を表明することが出来る。 自分の学習の見通しを立て、振り返りをして学ぼうとすることができる。	10	
			思			
			主			
11	L12~15 否定 特殊構文 話法 会話表現	ビジョンクエストⅡ システム英作文 スマコレ JETとの授業 CNN Essential 2.5 英語の構文80 定期考査	知	英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きに関する事項及びその働きや役割を理解している。 英語で自分の意見を表明することが出来る。 自分の学習の見通しを立て、振り返りをして学ぼうとすることができる。	10	
			思			
			主			
12	Activity 1,2,3	ビジョンクエストⅡ システム英作文 スマコレ JETとの授業 CNN Essential 2.5 英語の構文80 定期考査	知	英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きに関する事項及びその働きや役割を理解している。 英語で自分の意見を表明することが出来る。 自分の学習の見通しを立て、振り返りをして学ぼうとすることができる。	10	
			思			
			主			
3 学期	L1~4 主語の決定 目的の表現 理由の表現	ビジョンクエストⅡ システム英作文 スマコレ JETとの授業 CNN Essential 2.5 英語の構文80 定期考査	知	英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きに関する事項及びその働きや役割を理解している。 英語で自分の意見を表明することが出来る。 自分の学習の見通しを立て、振り返りをして学ぼうとすることができる。	10	
			思			
			主			

年間授業計画

科目(講座名)	家庭基礎	2単位	必履修	学年	2年
教科書 副教材	教育図書「未来へつなぐ 家庭基礎 365」 実教出版「生活学Navi 資料+成分表 2023」	教科担当			

1 教科の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

2 科目の目標

【知識及び技能】

生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】

生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて理論的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。

【学びに向かう力、人間性等】

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

3 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価基準	時数
1 学 期	4	家庭科教育の歴史 SDG s と家庭科の学び	●家庭科の歴史 社会背景と関連させて家庭科教育の歴史や男女共学の意義を学習する。 ●SDG s と家庭科 SDG s と家庭科の学びのつながりを考え、今後の学習の見通しをもつ。	知 家庭科教育の変遷を理解している。 思 社会的背景と家庭科教育の関連から、家庭科教育が男女共学である意義を見出している。 主 SDG s と家庭科の学びのつながりを多角的に捉え、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	2
		A編 第1章 生涯の生活設計1	●ライフプラン これから起こる人生のライフイベントを想定し、目標をたて、そのための意思決定について	知 ・生涯発達の視点に立ち、ライフステージの特徴と課題を理解している。 ・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。	2

5		て考える。	思	生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活および職業生活について考察し、生活設計を工夫している。	
			主	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
	A編 第2章 青年期の自立 と家族・家庭	<ul style="list-style-type: none"> ●自立 青年期とはどのような時期なのかを知り、青年期に必要な自立について考える。 ●社会の変化に伴う家族・家庭・結婚・労働 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活を支える職業労働と家事労働の特徴を理解する。 ・日本の雇用環境を考え、将来を見通した職業観を身につける。 ・自分や他者の性を尊重することの大切さを理解する。 ・社会の変化に伴う家族・家庭の変化について理解する。 ●家族と法律 家庭生活を支える基本的な法律について理解する。 	知	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。 ・家族・家庭の機能と家族関係について理解を深めている。 	4
			思	生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
			主	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
	A編 第3章 子どもの生活 と保育	<ul style="list-style-type: none"> ●いのちの誕生 いのちの尊さを再認識する。 ●妊産婦・新生児抱っこ体験 ●子どもの成長の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達に応じて適切に関わるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。 ●保育実習 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもや子育てに対する理解を深めるため 	知	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の心身の発達と生活について理解している。 ・親の役割と保育について理解している。 ・乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。 ・子供を取り巻く社会環境について理解している。 ・子育て支援について理解している。 	
		思	子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		

6		<p>に、子どもとの触れ合いや、保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。</p> <p>●子育てを支える仕組みと子どもの権利・福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。 ・子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか、考えて実践しようとする。 	主	<p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>	
7	C編 第2章 消費生活と意思決定	<p>●消費者問題と消費者の権利・責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする 	知	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性について理解している。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費者保護の仕組みについて理解している。 	4
思	<p>自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>				
主	<p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。</p>				
	C編 第3章 持続可能なライフスタイルと環境	<p>●持続可能な社会をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 ・一人の主体者として、社会全体をよりよい方向に動かしていこうとする。 	知	<ul style="list-style-type: none"> ・生活と環境との関わりについて理解している。 ・持続可能な消費について理解している。 ・持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。 	2
思	<p>持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>				
主	<p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>				

2 学 期	9	B編 第2章 衣生活と健康	<p>●被服の役割を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 被服の多様な機能や特徴について理解する。 用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。 被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。 <p>●被服を管理する</p> <ul style="list-style-type: none"> 手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。 環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。 <p>●衣生活の文化と知恵</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代に受け継がれる日本の衣文化の工夫を受け継ぐために、日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。 <p>●これからの衣生活</p> <ul style="list-style-type: none"> 次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。 全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について理解を深める。 	知	<ul style="list-style-type: none"> 被服材料や構成、衛生について理解している。 被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。 	10
				思	被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
				主	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	

11	B編 第1章 食生活と健康	<p>●食生活の課題について考える よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。</p> <p>●食事と栄養・食品 自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。</p> <p>●食生活の選択と安全 安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。</p> <p>●生涯の健康を見通した食事計画 自分と家族の食生活を計画・管理できるようになるために、各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、「健康によい、栄養バランスのよい食事」とはどのようなものかを理解する。</p> <p>●調理実習 ・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。 ・配膳やマナーに関心を持つ。</p> <p>●食生活の文化と知恵 ・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。 ・世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。</p> <p>●これからの食生活 ・自分や家族の食生活を</p>	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じた栄養の特徴について理解している。 ・食品の栄養的特質について理解している。 ・食品の調理上の性質について理解している。 ・健康や環境に配慮した食生活について理解している。 ・食品衛生について理解している。 ・ライフステージに応じた栄養の特徴について理解している。 ・自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ・おいしさの構成要素について理解している。 ・目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。 <p>思</p> <p>食品の調理上の性質や食の安全について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>主</p> <p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>	18
12				

			<p>持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。</p>		
		A編 第4章 高齢期の生活と福祉	<p>●高齢者の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超高齢社会の背景を理解する。 ・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。 <p>●高齢者の心身の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。 <p>●これからの超高齢社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。 ・超高齢社会の課題を踏まえて、自分自身の高齢期をよりよく生きられるようにするとともに、地域社会の一員として高齢者との関わり方を考え、行動しようとする。 	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を取り巻く社会環境について理解している。 ・高齢期の心身の特徴について理解している。 ・高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解している。 ・生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている。 	5
				<p>思</p> <p>高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>	
				<p>主</p> <p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>	
3 学 期	1	C編 第3章 住生活と住環境	<p>●住生活の変遷と住居の機能</p> <p>生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。</p> <p>●安全で快適な住生活の計画</p> <p>自らの住生活に生かすことができるよう、防</p>	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じた住生活の特徴について理解している。 ・防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解している。 ・適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 	

2		<p>災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。</p> <p>●住生活の文化と知恵 日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって、大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。</p> <p>●これからの住生活 持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。</p>	思	<p>・住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて問題を見いだし、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>	5
		主	<p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>		
3	A編 第5章 共生社会と福祉	<p>●私たちの生活と福祉 ・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。</p> <p>・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていけばよいか、考えて実践しようとする。</p> <p>●社会保障 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。</p>	知	<p>生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。</p>	4
			思	<p>家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだし、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>	
			主	<p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>	
	C編 第1章 生活における経済の計画	<p>●購入・支払いのルールと方法 ・毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。</p> <p>・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れる</p>	知	<p>・家計の構造について理解している。</p> <p>・家計管理について理解している。</p> <p>・生活における経済と社会との関わりについて理解している。</p>	4
			思	<p>生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだし、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に</p>	

		<p>よう、契約の重要性について理解する。</p> <p>●生涯の経済生活を見通す</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。 		<p>基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>	
			主	<p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。</p>	
	C 編 生涯の生活設計 2	<p>●ライフプランの振り返りと 1 年の家庭科の学びを通じた変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めに作成したライフプランを振り返る。 人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。 これから持続可能な社会を構築していくために、何ができるか考えて実践しようとする。 	知	<ul style="list-style-type: none"> 人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。 	
			思	<p>生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>	2
			主	<p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>	